

2021 年度

情報公開

- 大学等における修学の支援に関する法律第 7 条第 1 項の確認に係る申請書
- 実務経験のある教員等による授業科目
- 客観的な指標の算出方法
- 卒業の認定に関する方針
- シラバス
- 学校関係者評価

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	四条畷看護専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	看護学科	夜・通信	1920 時間	160 時間	
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

・学校のHP www.shijonawate-kango.ac.jp/johokokai.html にて公開
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	四条啜看護専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

・学校法人のHPにて公開 www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
新門 正広 (非常勤)	新門歯科医院 院長 (H10.4.1～)	R2.2.1～ R3.7.14	民間の視点からの 適正な学校運営の 指導・助言
林 康樹 (非常勤)	社会福祉法人長命荘 事務長(H15.9.1～)	同 上	同 上
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	四条畷看護専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 看護学科(2年制) 【作成に係る取組み】 ・教員による科目 旧年度講義概要に直接入力によって新年度講義概要の加筆・訂正等に記入の確認を行う ・外来講師科目 郵送によって新年度講義概要の確認を行う ・学内最終確認 【公表に係る取組み】 ・新年度開始時期に教育計画のみオリエンテーション時に学生に配布している。また保護者に対しては、入学式に参列した保護者には説明のうえで参列していない保護者には郵送している。 ・HP上に公開している。 ・「シラバス」は学校事務室に設置し、閲覧可能である。	
授業計画書の公表方法	www.shijonawate-kango.ac.jp/johokokai.html
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 成績評価は、筆記試験、口述、論文、実技試験等講師が適当と認める方法によって行う。学科試験の出題および採点は担当講師がこれを行う。 受験資格は、講義演習に於いては授業科目の時間数の3分の2以上の出席者とする。臨地実習に於いては、規定の時間数の5分の4(72時間)以上出席し、且つ実習記録を提出していなければならない。 単位認定は、科目毎とし講義及び臨地実習が終了後に実施する。その得点の6割以上の得点をもって履修とする。その得点が6割に満たない場合、再試験を受け6割以上の得点をもって履修とする。単位認定に係る提出物については提出期限を遵守しなければならない。 大学、高等専門学校、養成施設等に在学していた者については、既修得した単位が当該科目の認定要件を満たしていれば、単位の認定を受けることができる。 ※単位の計算方法(学則第4章24条より) ・1単位 15～30時間と換算する(講義・演習) ・1単位 45時間と換算する(臨地実習)	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 各学年の授業に対する習熟度を測るため、履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出している。 G P A (Grade Point Average) 制度の導入を検討しているが、今後の指導への参考として活用したい。 学生には、自らの得点と順位を記したものを配付している。	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	www.shijonawate-kango.ac.jp/johokokai.html
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 保健師助産師看護婦法ならびに看護師学校養成指定規則を遵守し、以下の教育課程における単位を取得した者に対して卒業を認定する。 【学則 第5章 第30条～第34条】 医療専門課程における卒業の認定は次のとおりとする。 第30条 学校長は、所定の科目の単位認定を受けた者については、運営会議の議を経て卒業の認定を行う。 第31条 卒業の認定基準は次のとおりとする。 (1)各学科の単位が認定されていること。 (2)欠席日数が出席すべき日数の3分の1を超えないもの。 第32条 卒業の認定を受けた者には、文部科学大臣による告示により専門士(医療専門課程)の称号を付与する。 第33条 学校長は、卒業を認定した者に対し本校所定の卒業証書を授与する。 第34条 本校を卒業した者には看護師国家試験の受験資格が与えられる。 【細則】(卒業) 第14条 所定の授業科目・臨地実習について単位の認定をうけた者については、運営会議の議を経て卒業させる。 基礎分野 8 単位 専門基礎分野 14 単位 専門分野Ⅰ 9 単位 専門分野Ⅱ 26 単位 統合分野 11 単位 合 計 68 単位 ※単位の計算方法（学則第4章24条より） ・1単位 15～30 時間と換算する(講義・演習) ・1単位 45 時間と換算する(臨地実習)	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	www.shijonawate-kango.ac.jp/johokokai.html

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	四条畷看護専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校法人のHPで公開 www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
収支計算書又は損益計算書	学校法人のHPで公開 www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
財産目録	学校法人のHPで公開 www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
事業報告書	学校法人のHPで公開 www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
監事による監査報告（書）	学校法人のHPで公開 www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	看護学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	2190 時間	1440	30	720		
			時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		75 人	0 人	10 人	39 人	49 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・教員による科目 旧年度講義概要に直接入力によって新年度講義概要の加筆・訂正等に記入の確認を行う ・外来講師科目 郵送によって新年度講義概要の確認を行う ・学内最終確認 ・新年度開始時期に教育計画のみオリエンテーション時に学生に配布している。 また保護者に対しては、入学式に参列した保護者には説明のうえで参列していない保護者には郵送している。

成績評価の基準・方法												
(概要) 各学生の授業に対する習熟度を測るため、履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出している。G P A (Grade Point Average)制度の導入を検討しているが、今後の指導への参考として活用したい。												
卒業・進級の認定基準												
(概要) 保健師助産師看護婦法ならびに看護師学校養成指定規則を遵守し、以下の教育課程における単位を取得した者に対して卒業を認定する。 【学則 第 5 章 第 30 条～第 34 条】 医療専門課程における卒業の認定は次のとおりとする。 第 30 条 学校長は、所定の科目の単位認定を受けた者については、運営会議の議を経て卒業の認定を行う。 第 31 条 卒業の認定基準は次のとおりとする。 (1)各学科の単位が認定されていること。 (2)欠席日数が出席すべき日数の 3 分の 1 を超えないもの。 第 32 条 卒業の認定を受けた者には、文部科学大臣による告示により専門士(医療専門課程)の称号を付与する。 第 33 条 学校長は、卒業を認定した者に対し本校所定の卒業証書を授与する。 第 34 条 本校を卒業した者には看護師国家試験の受験資格が与えられる。 【細則】(卒業) 第 14 条 所定の授業科目・臨地実習について単位の認定をうけた者については、運営会議の議を経て卒業させる。 <table><tr><td>基礎分野</td><td>8 単位</td></tr><tr><td>専門基礎分野</td><td>14 単位</td></tr><tr><td>専門分野Ⅰ</td><td>9 単位</td></tr><tr><td>専門分野Ⅱ</td><td>26 単位</td></tr><tr><td>統合分野</td><td>11 単位</td></tr><tr><td>合 計</td><td>68 単位</td></tr></table> ※単位の計算方法（学則第 4 章 24 条より） ・ 1 単位 15～30 時間と換算する(講義・演習) ・ 1 単位 45 時間と換算する(臨地実習)	基礎分野	8 単位	専門基礎分野	14 単位	専門分野Ⅰ	9 単位	専門分野Ⅱ	26 単位	統合分野	11 単位	合 計	68 単位
基礎分野	8 単位											
専門基礎分野	14 単位											
専門分野Ⅰ	9 単位											
専門分野Ⅱ	26 単位											
統合分野	11 単位											
合 計	68 単位											
学修支援等												
(概要) ・ 入学前説明会 ・ 基礎学力試験の学習不振者に対しステップアップ授業 ・ 学年担任制度およびアドバイザー制度 ・ 学生・教員で国家試験対策委員を組織し、学年を越えた相互学習を行っている。												

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
34 人 (100%)	0 人 (0%)	32 人 (94.1%)	2 人 (5.9%)
(主な就職、業界等) 医療施設（病院等）			
(就職指導内容) 教員による就職活動指導、履歴書の添削			
(主な学修成果（資格・検定等）) 看護師国家試験受験資格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
77 人	7 人	9%
(中途退学の主な理由) 成績不良の為		
(中退防止・中退者支援のための取組) 教員による本人との個別面談・個別指導、臨床心理士によるカウンセリング、保護者への 電話連絡・個人(三者)面談等		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
看護学科	300,000 円	420,000 円	350,000 円	
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援（任意記載事項） ・家族割引制度(二親等内の親族が関連校を卒業若しくは在学している場合、入学金の一部を免除する制度) ・姉妹校割引制度(阪奈中央看護専門学校准看護科を卒業し本校へ入学された場合、入学金の一部を免除する制度) ・専門実践教育訓練給付金制度・専門実践教育訓練支援制度 ・各種奨学金(日本学生支援機構等) ・診療費補助制度（関連施設・関連病院）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
学校 HP にて公開 www.shijonawate-kango.ac.jp/johokokai.html#		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
自己評価結果の客観性・透明性を高めるため、学外関係者による「学校関係者評価委員会」を設置し、学校関係者評価を実施する。 ○主な評価項目：教育、施設、学生サービスなど ○評価委員の定数：5 名以上 ○評価委員の選出区分：卒業生、企業関係者、高校関係者、地域住民、教育関連有識者など ○評価結果の活用方法：学校運営等の改善に活用する。評価結果ならびに改善策と実施の時期等についてはホームページで随時公表する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
医療法人和幸会 阪奈中央病院 院長 米澤 泰司	令和 3 年 1 月 1 日～ 令和 3 年 1 2 月 3 1 日	企業関係者
奈良県専修学校各種学校連合会 会長 大原 敏敬	令和 2 年 1 月 1 日～ 令和 3 年 1 2 月 3 1 日	教育関連有識者
学校法人興国学園 興国高等学校 副校長 宮野 博	令和 2 年 1 月 1 日～ 令和 3 年 1 2 月 3 1 日	高校関係者
医療法人和幸会パークヒルズ田原苑 看護部長 前原 園代	令和 2 年 1 月 1 日～ 令和 3 年 1 2 月 3 1 日	地域住民
医療法人和幸会阪奈中央病院リハビリ部 部長 川原 勲	令和 2 年 1 月 1 日～ 令和 3 年 1 2 月 3 1 日	企業関係者
医療法人和幸会阪奈サナトリウム 師長 酒井 真紀	令和 2 年 1 月 1 日～ 令和 3 年 1 2 月 3 1 日	卒業生
医療法人和幸会阪奈中央病院 谷川 優香	令和 2 年 1 月 1 日～ 令和 3 年 1 2 月 3 1 日	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		
学校 HP にて公開 www.shijonawate-kango.ac.jp/johokokai.html#		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） www.shijonawate-kango.ac.jp/johokokai.html 「シバス」は、学校事務室に設置し、閲覧可能である

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	四条畷看護専門学校
設置者名	学校法人 栗岡学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		－	－	－
内 訳	第Ⅰ区分	－	－	
	第Ⅱ区分	－	0人	
	第Ⅲ区分	－	－	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				－
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）				
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	—	—
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

実務経験のある教員等による授業科目一覧表(四条看護専門学校)

		:実務教員科目・時間							
教育内容		指定 規則 単位	授業科目		学 則		授 業 内 容	時期	
					単位	時間		1年次	2年次
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と人間生活の理解	7	情報科学		1	30	看護と情報処理他	4月	
			論理学		1	30	論理的思考とは・・・	4月	
			哲学		1	15	哲学とは、人間とは他	10月	
			人間関係論		1	30	人間関係とは、討議法・カウンセリング他	4月	
			教育学		1	30	教育原理、看護と教育他	4月	
			社会学		1	30	社会概念、社会病理・ジェンダー他	4月	
			英語		1	30	医学、看護用語・臨床場面の英会話他	4月	
			スポーツと健康科学		1	30	運動生理学、スポーツの意義他	4月	
小 計		7	小 計		8	225			
専門基礎分野	人体の構造と機能 疾病の成り立ちと回復の促進	10	解剖生理学Ⅰ		1	30	総論・神経系・筋骨格・生殖器系ほか	4月	
			解剖生理学Ⅱ		1	30	呼吸、循環、体温のしくみ・消化と吸収・排泄、腎機能ほか	7月	
			生化学(含栄養学)		1	30	生化学の基礎・物質代謝他	6月	
							栄養状態の判定・食事療法の実際他		
			疾病治療論Ⅰ		1	30	病理学総論・代謝、循環異常、炎症と免疫他	4月	
							視力障害・眼科疾患	後期	
							難聴・嚥下障害・耳鼻咽喉科疾患	後期	
			疾病治療論Ⅱ		1	30	呼吸器系疾患	6月	
							循環器系疾患	後期	
			疾病治療論Ⅲ		1	30	血液・造血器疾患	10月	
							内分泌・代謝系疾患	後期	
							皮膚・アレルギー・膠原病	後期	
			疾病治療論Ⅳ		1	30	消化器系疾患	後期	
							脳神経系疾患	後期	
			疾病治療論Ⅴ		1	30	運動器系疾患	後期	
							腎系疾患	後期	
							泌尿器系疾患	後期	
							女性生殖器系疾患	後期	
			薬理学		1	30	総論・薬物の作用機序・薬物の管理他	9月	
	微生物学		1	30	総論・細菌、真菌、原虫、ウイルスの性質と感染症・感染予防対策他	後期			
	健康支援と社会保障制度	4	総合医療論		1	15	医療の歩美と医療観の変遷・医の倫理・生活と医療他	5月	
			公衆衛生		1	15	公衆衛生の概念・人口動態・衛生統計他	4月	
			看護関連法規		1	15	法規の概念・医事法・保健師助産師看護師法・薬事法		4月
社会福祉			1	30	社会福祉の概念、変遷・社会福祉制度と社会保障制度・社会福祉と看護連携他	4月			
小 計		14	小 計		14	375			
専門分野Ⅰ	基礎看護学	6	基礎看護学概論		1	30	看護の概念・看護の対象・看護の変遷、倫理他	4月	
			基礎看護学援助論Ⅰ		1	30	看護技術の本質・安全・安楽	4月	
							コミュニケーション		
			基礎看護学援助論Ⅱ		1	15	観察とフィジカルアセスメント	後期	
			基礎看護学援助論Ⅲ		1	30	問題解決思考とは・看護過程とは 紙上事例展開	6月	
			基礎看護学援助論Ⅳ		1	30	環境調整・衣生活・清潔の援助	前期	
							食事の援助・排泄の援助	前期	
							活動・休息(睡眠)の援助	前期	
			基礎看護学援助論Ⅴ		1	30	診療の補助(診察・検査・与薬・治療・処置)	後期	
							学習支援	後期	
			基礎看護学援助論Ⅵ(臨床看護総論)		1	30	健康ニーズと家族への看護、経過別看護	後期	
主要症状、治療・処置別看護									

小 計	6	小 計	7	195			
専 門 分 野	成人看護学	3	成人看護学概論	1	30	成人の特徴、課題・保健の動向他	7月
			成人看護学援助論Ⅰ	1	30	循環機能障害をもつ成人の看護	後期
						内分泌機能障害をもつ成人の看護	
						消化・吸収機能障害をもつ成人の看護	
			成人看護学援助論Ⅱ	1	30	呼吸機能障害をもつ成人の看護	後期
						血液・造血器機能障害をもつ成人の看護	
						脳・神経機能障害をもつ成人の看護	
			成人看護学援助論Ⅲ	1	30	腎・泌尿器機能障害をもつ成人の看護	後期
						運動機能障害をもつ成人の看護	
						事例展開	1年次3月～2年次4月
	小計	3		4	120		
	老年看護学	3	老年看護学概論	1	30	高齢者とは・加齢に伴う変化・人権、倫理的問題他	5月
			老年看護学援助論Ⅰ	1	30	自立生活の拡大、治療に関するケア	後期
						アセスメントとケアの技法	
			老年看護学援助論Ⅱ	1	30	リハビリテーション	後期
						レクリエーション	後期
						事例展開	1年次3月～2年次4月
	小計	3		3	90		
	小児看護学	3	小児看護学概論	1	30	小児看護の特徴と理念・成長、発達課題と生活	前期
			小児看護学援助論Ⅰ	1	30	看護と看護技術	後期
			小児看護学援助論Ⅱ	1	30	疾病、症状の理解	後期
						事例展開	1年次3月～2年次4月
	小計	0		3	90		
	母性看護学	3	母性看護学概論	1	30	母性看護の沿革・看護の対象・リプロダクティブヘルスライツ	4月
			母性看護学援助論Ⅰ	1	30	妊婦、産婦、褥婦、新生児の理解	前期
			母性看護学援助論Ⅱ	1	30	妊娠、出産、産褥、新生児の異常と看護	後期
						事例展開	1年次3月～2年次4月
	小計	3		3	90		
	精神看護学	3	精神看護学概論	1	30	精神の健康とは・危機とストレス・人権擁護と法制度他	前期
			精神看護学援助論Ⅰ	1	30	精神症状、病態像理解	10月
						事例展開	1年3月～2年次4月
			精神看護学援助論Ⅱ	1	30	ケアの人間関係・入院治療と看護の展開	後期
	小計	3		3	90		
統 合 分 野	在宅看護論	3	在宅看護概論	1	30	在宅看護の基本理念・継続看護・訪問看護の機能と役割	7月
			在宅看護援助論Ⅰ	1	30	在宅看護の実際	後期
			在宅看護援助論Ⅱ	1	30	在宅看護技術	後期
						事例展開	4月
	小計	3		3	90		
	看護の統合と実践	4	看護の統合と実践概論	1	30	看護管理	後期
						看護研究(ケーススタディ)	1年次後期～2年次12月
			看護の統合と実践Ⅰ	1	30	災害看護総論	前期
						BLS演習・病院の災害訓練の実際	
						災害看護の実際、トリアージ	
						国際看護	後期
			看護の統合と実践Ⅱ	1	15	医療安全	後期
			看護の統合と実践Ⅲ	1	30	複数患者の看護・総合看護実践演習	後期
	小 計	4	小 計	4	105		
専 門 分 野	臨地実習	2	基礎看護学実習	2	90		2月
		2	成人看護学実習	2	90		5月～12月
		2	老年看護学実習	2	90		
		2	小児看護学実習	2	90		
		2	母性看護学実習	2	90		
		2	精神看護学実習	2	90		
		2	在宅看護論実習	2	90		
		2	看護の統合と実践	2	90		10月～12月
	小 計	16 (720)	小 計	16	720		
総 計	65 (2180)	総 計	68	2190			

＜客観的な指標の算出方法＞

四条畷看護専門学校

客観的な指標の算出方法					
履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する。 (100点満点で点数化)					
学科名	看護学科	学年		学生数	40
成績の分布					
指標の数値	～59 点	60～69 点	70～79 点	80～89 点	90～100 点
人数					
下位1／4に該当する人数 人 下位1／4に該当する指標の数値 点以下					

○今後はG P A (Grade Point Average)制度の採用を検討している。

＜学生便覧より抜粋＞

学 則

第 5 章 卒 業 等

(卒業の認定)

第30条 学校長は、所定の科目の単位認定を受けた者について、運営会議の議を経て卒業の認定を行う。

(卒業の認定基準)

第31条 卒業の認定基準は次のとおりとする。

(1) 各学科の単位が認定されていること。

(2) 欠席日数が出席すべき日数の3分の1を超えない者。

※出席すべき日数とは、行事等を含む授業のある日数である。

(専門士称号の付与)

第32条 卒業の認定を受けた者には、文部科学大臣による告示により専門士（医療専門課程）の称号を付与する。

(卒業証書)

第33条 学校長は、卒業を認定した者に対し本校所定の卒業証書を授与する。

(資格の取得)

第34条 本校を卒業した者には看護師国家試験の受験資格が与えられる。

細 則

(卒業)

第 14 条 所定の授業科目・臨地実習について単位の認定をうけた者については、運営会議の議を経て卒業させる。

基礎分野	8 単位
専門基礎分野	14 単位
専門分野Ⅰ	9 単位
専門分野Ⅱ	26 単位
統合分野	11 単位
合 計	68 単位

表 1

医療課程(2年課程) 看護学科 全日制

授 業 科 目 と 時 間 配 分 (2020 年度)

教育内容		指定規則	授業科目	学 則		
		単位		単位(時間)	1 年次	2 年次
基礎分野	科学的思考の基盤	7	哲学	1(15)	15	
			論理学	1(30)	30	
			情報科学	1(30)	30	
	人間と人間生活の理解		人間関係論	1(30)	30	
			教育学	1(30)	30	
			社会学	1(30)	30	
			英語	1(30)	30	
スポーツと健康科学	1(30)	30				
小 計		7	小 計	8(225)	225	0
専門基礎分野	人体の構造と機能	10	解剖生理学Ⅰ	1(30)	30	
			解剖生理学Ⅱ	1(30)	30	
			生化学(含栄養学)	1(30)	30	
	疾病の成り立ちと回復の促進		疾病治療論Ⅰ	1(30)	30	
			疾病治療論Ⅱ	1(30)	30	
			疾病治療論Ⅲ	1(30)	30	
			疾病治療論Ⅳ	1(30)	30	
			疾病治療論Ⅴ	1(30)	30	
			微生物学	1(30)	30	
			薬理学	1(30)	30	
	健康支援と社会保障制度		4	総合医療論	1(15)	15
公衆衛生		1(15)		15		
看護関連法規		1(15)			15	
社会福祉		1(30)		30		
小 計		14	小 計	14(375)	360	15
専門分野Ⅰ	基礎看護学	6	基礎看護学概論	1(30)	30	
			基礎看護学援助論Ⅰ	1(30)	30	
			基礎看護学援助論Ⅱ	1(15)	15	
			基礎看護学援助論Ⅲ	1(30)	30	
			基礎看護学援助論Ⅳ	1(30)	30	
			基礎看護学援助論Ⅴ	1(30)	30	
			基礎看護学援助論Ⅵ	1(30)	30	
専門分野Ⅱ	成人看護学	3	成人看護学概論	1(30)	30	
			成人看護学援助論Ⅰ	1(30)	30	
			成人看護学援助論Ⅱ	1(30)	30	
			成人看護学援助論Ⅲ	1(30)	30	

教育内容		指定規則	授業科目	学 則		
		単位		単位(時間)	1年次	2年次
専 門 分 野 Ⅲ	老年看護学	3	老年看護学概論	1(30)	30	
			老年看護学援助論Ⅰ	1(30)	30	
			老年看護学援助論Ⅱ	1(30)	30	
	小児看護学	3	小児看護学概論	1(30)	30	
			小児看護学援助論Ⅰ	1(30)	30	
			小児看護学援助論Ⅱ	1(30)	30	
	母性看護学	3	母性看護学概論	1(30)	30	
			母性看護学援助論Ⅰ	1(30)	30	
			母性看護学援助論Ⅱ	1(30)	30	
	精神看護学	3	精神看護学概論	1(30)	30	
			精神看護学援助論Ⅰ	1(30)	30	
			精神看護学援助論Ⅱ	1(30)	30	
統 合 分 野	在宅看護論	3	在宅看護概論	1(30)	30	
			在宅看護援助論Ⅰ	1(30)	30	
			在宅看護援助論Ⅱ	1(30)	30	
	看護の統合と実践	4	看護の統合と実践概論	1(30)	15	15
			看護の統合と実践Ⅲ	1(30)		30
小 計		28	小 計	30(870)	795	75
専 門 分 野	臨地実習	2	基礎看護学実習	2(90)	90	
		2	成人看護学実習	2(90)	90	
		2	老年看護学実習	2(90)	90	
		2	小児看護学実習	2(90)	90	
		2	母性看護学実習	2(90)	90	
		2	精神看護学実習	2(90)	90	
		2	在宅看護論実習	2(90)	90	
		2	看護の統合と実践実習	2(90)	90	
小 計		16	小 計	16(720)	90	630
総 計		65(2180)	総 計	68(2190)	1470	720

学校法人栗岡学園 四条畷看護専門学校

2021 年度 S y l l a b u s

第 30 期生

目次

基礎分野

哲学-----	1
論理学-----	2
情報科学-----	3
人間関係論-----	4
教育学-----	5
社会学-----	6
英語-----	7
スポーツと健康科学-----	8

専門基礎分野

解剖生理学Ⅰ-----	9
解剖生理学Ⅱ-----	10
生化学（栄養学含む）-----	11
疾病治療論Ⅰ-----	12
疾病治療論Ⅱ-----	13
疾病治療論Ⅲ-----	14
疾病治療論Ⅳ-----	15
疾病治療論Ⅴ-----	16
微生物学-----	17
薬理学-----	18
総合医療論-----	19
公衆衛生-----	20
看護関連法規-----	21
社会福祉-----	22

専門分野Ⅰ

基礎看護学概論-----	23
基礎看護学援助論Ⅰ-----	24
基礎看護学援助論Ⅱ-----	25
基礎看護学援助論Ⅲ-----	26
基礎看護学援助論Ⅳ-----	27
基礎看護学援助論Ⅴ-----	28
基礎看護学援助論Ⅵ-----	29

専門分野Ⅱ

成人看護学概論	30
成人看護学援助論Ⅰ	31
成人看護学援助論Ⅱ	32
成人看護学援助論Ⅲ	33
老年看護学概論	34
老年看護学援助論Ⅰ	35
老年看護学援助論Ⅱ	36
小児看護学概論	37
小児看護学援助論Ⅰ	38
小児看護学援助論Ⅱ	39
母性看護学概論	40
母性看護学援助論Ⅰ	41
母性看護学援助論Ⅱ	42
精神看護学概論	43
精神看護学援助論Ⅰ	44
精神看護学援助論Ⅱ	45

統合分野

在宅看護概論	46
在宅看護援助論Ⅰ	47
在宅看護援助論Ⅱ	48
看護の統合と実践概論	49
看護の統合と実践論Ⅰ	50
看護の統合と実践論Ⅱ	51
看護の統合と実践論Ⅲ	52

臨地実習

臨地実習概要	53
--------	----

授業科目		科学的思考の基盤 哲学	1 年次	1 単位	担当者	野々村 梓
			後期	15 時間		
目的 目標		目標：1. 哲学の概念を学び、社会的存在としての人間の生き方、価値観、人間の生命や人権に対する基本的理念および倫理観を理解する				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	1. 講義計画、シラバス、授業の方針等説明 2. 哲学とはなにか				講義 グループワーク 授業終了後、 感想・質問提出
	2	1. 倫理とはないか 2. 倫理を学ぶ意味 3. 看護倫理として必要な義務論、功利主義について				
	3	1. 生命倫理について 2. インフォームドコンセントについて				
	4	1. 倫理原則およびバルセロナ宣言 2. 生命の尊厳性について 3. 性的マイノリティ、LGBT について社会的側面から考える				
	5	1. 妊娠人工中絶、生殖医療の倫理的な側面について 2. ホスピスケア、緩和ケアについて				
	6	1. ホスピスケアの概念から鎮静の倫理的妥当性について 2. サラ・フライの倫理原則について				
	7	1. 看護師の責務と倫理原則、ケアについて 2. 事例を用いながら倫理原則についてディスカッション 3. 患者にとっての自律無害について考える				
	8	1. 終講試験 2. まとめ				
評価方法	論文作成記 100 点満点					
テキスト	系統看護学講座別巻 看護倫理：医学書院，2018.					
参考図書						
Message	哲学を学ぶことで、看護の対象である人間の存在価値、生命倫理について考え、看護実践の土台が築けるよう学んでいきましょう。					
教員の 実務経験	実務経験なし					

授業科目		科学的思考の基盤 論理学	1 年次	1 単位	担当者	大本達也
			前期	3 0 時間		
目的 目標		目標：思考形式と法則を学び、論理的思考・文章表現を学ぶ				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	1. 論理学とは、論理的思考とは、実用的論理術について 2. グループ分け、チーム活動 3. 宿題「テーマ学習」レポート				講義・演習 宿題提示
	2.	1. チーム発表、討議。(次回資料提示) 2. 「テーマ学習」について討議 3. 宿題「テーマ学習」レポート再提出				資料・演習 宿題提示
	3.	1. チーム発表、討議。(次回資料提示) 2. 宿題「テーマ学習」逆バージョンレポート				資料・演習 宿題提示
	4.	1. チーム発表、討議。(次回資料提示) 2. 宿題「テーマ学習」レポート				資料・演習 宿題提示
	5.	1. 小テスト 2. チーム・ミーティングー心とは？ 3. 宿題「テーマ学習」レポート				資料・演習 宿題提示
	6.	1. チーム発表 ― 討論				資料・演習
	7.	1. 「テーマ」についてレポートを書く準備 2. レポートの書き方 3. 宿題「レポートの下書き」				資料 宿題提示
	8.	1. 「テーマ」レポート執筆				レポート作成
	9.	1. 「テーマ」をめぐって討論、発表 2. 「テーマ」レポート				演習 宿題提示
	10.	1. 「テーマ学習」① 2. 宿題「テーマ学習」				資料・演習 宿題提示
	11.	1. 「テーマ学習」② 2. 宿題「テーマ」レポート				資料・演習 宿題提示
	12.	1. 「テーマ学習」③ 2. グループ討議、発表準備、発表				資料・演習 DVD・宿題提示
	13.	1. 「テーマ学習」グループ発表				資料・演習
	14.	1. 「提示資料」を読みグループ討議、発表				資料・演習
	15	1. 終講レポートについて				記載要項
評価方法		レポート提出（テーマ提示あり） 100 点満点				
テキスト		必要時資料配布				
参考図書						
Message		GW で沢山の意見を聴く中で、それらを分析・統合させ論理的思考に基づいた文章表現ができるよう学習を深めましょう。				
教員の 実務経験		実務経験なし				

授業科		科学的思考の基盤 情報科学	1 年次	1 単位	担当者	浅居孝彦
			後期	3 0 時間		
目的 目標		目標：1.情報処理の基礎的知識を理解し、統計の意義、解析の仕方を学ぶ 2.公衆衛生、医療に対する客観的な見方に役立てる				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	1. 基本的な文章作成(Word による文章作成) 2. 課題「イッキ飲みに関する意識調査」				講義とコンピュータを使用した演習
	2	1. 表の作成(Word) 2. 課題「アルコールに関する質問」				
	3	1. データの入力・編集、表の作成(Excel)				
	4	1. 数式・関数の利用 2. 課題「健康診断の結果」				
	5	1. データベースの利用 2. 課題「データベースの利用」プリント提出				
	6	1. 集計表の作成 2. ピボットテーブルの利用				
	7	1. データ分析を利用した度数分布表の作成 2. グラフ作成、集計データを利用した棒グラフの作成				
	8	1. これまでの作業の復習、確認 2. Excel 集計表、関数、ピボットテーブル				
	9	1. プレゼンテーション、レポートを含めた成績評価の方法 2. 資料作成上の注意点				
	10	1. アンケートのデータを利用したプレゼンテーションの準備				
	11	1. アンケートのデータ分析 2. レポート発表の資料作成				
	12	1. 報告準備				
	13	1. 報告準備の仕上げ				
	14	1. 報告会				
	15	1. 終講試験				
評価方法		コンピュータ使用によるテスト（課題提示）				100 点満点
テキスト		講師作成資料				
参考図書						
Message		情報科学は、コンピュータだけを研究する学問ではありません。情報の形態、情報の量の概念を学び、その利用、社会への影響をなど学び、情報処理の方法へと進みます。情報処理では、統計学の基本的知識が必要です。余暇を利用してパソコンを大いに活用するよう心がけましょう。文章作成からグラフや図面の作成、あるいは表計算、統計処理などに活用できるようにしていきましょう。				
教員の 実務経験		実務経験なし				

授業科目		人間と人間生活の理解 人間関係論		1 年次	1 単位	担当者	キャンベル早川久美子
				前期	3 0 時間		
目的 目標		目標：人間の個人および集団関係における関係性を理解し、人間関係を円滑に保つ方法について学ぶ					
授 業 計 画	回数	講 義 内 容					備 考
	1	1. オリエンテーション 2. 第 1 章 人間関係論とは					講義、演習
	2	1. 第 1 章 自己認知 2. ノート「関係的存在としての人間」					
	3	1. 第 2 章 対人関係と役割 2. ノート「被包感」あるいは「庇護性」					
	4	1. 第 3 章 態度と対人関係 ①態度と態度変化、②説得的コミュニケーション 2. ノート「リルケ：老人」					
	5	1. 第 3 章 態度と対人関係 ③攻撃、 ④援助 2. 第 4 章 集団と個人 ①集団の特性 ②集団での課題遂行 3. グループ研究に向けてグルーピング 4. エッセイ「馬耳東風」					
	6	1. 第 4 章 集団と個人 ③集団での問題解決と意思決定 ④リーダーシップ論 2. 第 5 章 コミュニケーション ①定義と目標 3. グループ研究〈その 1〉 進行についてグループ討議					
	7.	1. 第 5 章 コミュニケーション ②対人コミュニケーション③マスコミュニケーション ④ICT コミュニケーション⑤非言語的コミュニケーション 2. グループ研究〈その 2〉 クーリーの定義					
	8.	1. 第 6 章 カウンセリングと心理療法①カウンセリング・心理療法の理論とスキル 2. グループ研究〈その 3〉 資料：トラベルビーのコミュニケーション能力					
	9.	1. 第 6 章 カウンセリングと心理療法 ②看護への応用 2. グループ研究〈その 4〉					
	10.	1. 第 7 章 コーチング ①コーチングのスキルと理論 ②看護への応用 2. グループ研究〈その 5〉					
	11.	1. 第 9 章 保健医療チームにおける人間関係 2. プレゼンテーション及びグループ研究〈その 6〉 資料：ブルースト「失われた時を求めて」を含む					
	12.	1. グループ研究発表 2. 第 10 章 患者を支える人間関係 3. 第 11 章 家族を含めた人間関係					
	13.	1. 第 8 章 アサーティブ・コミュニケーション 2. 書く、話す					
	14.	1. まとめと復習(これまでのキーワード) 2. 自分の学び、考えた事を伝える					
	15	1. 終講試験と振り返り					筆記試験
評価方法		筆記試験 教科書・資料持ち込み可 100 点満点					
テキスト		医学書院 人間関係論					
参考図書							
Message		人間生活には不可欠なごく日常的な人間関係について、先人の考えや研究にふれることにより初めて気づかされる問題も多いと思います。それらについてメンバー同士が突き詰めて考え合い、看護実践に活かせるような学習の機会として関係性について考えを深めましょう。					
教員の 実務経験		実務経験なし					

授業科目	人間と人間生活の理解 教育学		1 年次	1 単位	担当者	中田 正浩
			後期	3 0 時間		
目的 目標	目標：人間形成における教育の機能・役割を理解し、主体的に学習する能力と看護の教育的 役割を認識する					
	回数	講 義 内 容				備 考
授 業 計 画	1	1. 社会のなかの看護と教育 2. 教育とはなにかー「教育」の概念				講義
	2	1. 教育の対象ー子ども観と発達 2. 社会変動と教育 3. 教育の組織化ー学校				
	3	1. 教授一人を教えるということ				
	4	1. 教訓ー他者との関わりを導く				
	5	1. 養護ー教育の受け手を見まもる				
	6	1. 発達ー教育を受けて成長する				
	7	1. 学びの場ー学校と家庭				
	8	1. 教育の目標と評価				
	9.	1. 教育のメディアー教育をデザインする				
	10	1. 教育の担い手ー専門性と専門職				
	11	1. 教育の場をつくりしきみ				
	12	1. キャリア教育(専門教育)				
	13	1. ジェンダーとセクシュアリティ 2. 特別ニーズ教育・インクルーシヴ教育				
	14	1. 生涯学習 2. シティズンシップ教育				
	15	1. 終講試験 2. まとめ				
評価方法	レポート・筆記試験 100 点満点とする					
テキスト	系統看護学講座基礎「教育学」, 医学書院, 2015.					
参考図書						
Message	人間を幅広く捉え、日々発展していく医療のなかで、個々の人権を尊重した教育的な関わりにつ いて考えていきましょう。また自己成長のためのキャリアについて考える機会となるよう臨みま しょう。					
教員の 実務経験	実務経験なし					

授業科目	人間と人間生活の理解 社会学		1 年次	1 単位	担当者	武田 祐佳
			前期	3 0 時間		
目的 目標	目標：社会構造や社会的存在としての人間と家族の機能を理解し、現代社会が抱える 諸問題について学ぶ					
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	1. 「社会」概念 2. 社会規範				講義 グループワーク DVD
	2	1. 社会化 2. 役割取得 3. 自己意識 4. I と Me				
	3	1. 役割 2. 事故呈示 3. 相互作用				
	4	1. 集団と組織のちがい 2. 集団規範－同調と逸脱 3. 集団の分類 ゲマインシャフト／ゲゼルシャフト、第 1 次集団／第 2 次集団 コミュニティ／アソシエーション				
	5	1. 組織 ・官僚制的組織の特徴 ・組織における人間				
	6	1. 予言の自己成就 2. 社会的認知 3. 偏見、差別、の自己成就				
	7	1. 逸脱とラベリング				
	8	1. 家族（1） ・近代家族 ・日本の戦後の家族 ・家族の個人化・多様化				
	9	1. 家族（2） ・生殖医療 ・不妊をとりまく社会的・文化的問題 ・生殖医療と家族				
	10	1. 家族（3） ・高齢化の現況 ・高齢化に伴う家族生活の変化 ・高齢者の社会的ネットワーク				
	11	1. ジェンダー（1） ・性の多様性 ・社会化とジェンダー				
	12	1. ジェンダー（2） ・女性就労の現況 ・家庭生活に対する意識と行動				
	13	1. ジェンダー（3） ・ケアの現況 ・ケアとジェンダー				
	14	1. 自殺と社会 ・日本の自殺の現況 ・デュルケル「自殺論」				
	15	1. 終講試験 2. まとめ				筆記試験
評価方法	筆記試験 100 点満点					
テキスト	必要時資料配布					
参考図書						
Message	価値観が多様化している現代社会が抱える諸問題は多岐にわたります。学生自身が自からの課題として 講義に臨みましょう。					
教員の 実務経験	実務経験なし					

授業科目	人間と人間生活の理解 英語	1 年次	1 単位	担当者	人見 麻紀
		前期	3 0 時間		
目的 目標	目標：国際共通語としての英語によるコミュニケーションの基礎的能力を身につけると共に、看護活動に役立つ英語を学ぶ				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容			備 考
	1	オリエンテーション、Unit 1、Unit 2			講義 プリント
	2	Unit 3			
	3	Unit 4			
	4	Unit 5			
	5	Unit 6			
	6	Review 会話テスト			
	7	Unit 7			
	8	Unit 8			
	9	Unit 9			
	10	Review 会話テスト			
	11	Unit 1 0			
	12	Unit 1 1			
	13.	Unit 1 2			
	14	Review 会話テスト			
15	1. 終講試験 2. まとめ				
評価方法	筆記試験 70 点 会話テスト 30 点 100 点満点				
テキスト	Speaking of Nursing (Peter Vincent, Alan Meadows 著) 南雲堂				
参考図書					
Message	Let's have fun talking in English! Please feel free to ask me questions anytime.				
教員の 実務経験	実務経験なし				

授業科目		人間と人間生活の理解 スポーツと健康科学	1 年次	1 単位	担当者	山口 典孝 森山 琢磨
			後期	3 0 時間		
目的 目標		目標：1.スポーツ、レクリエーションの意義を学び、健康生活と運動の関連を理解する。 2.運動をとおして自己の体力の向上と健全な身体の発達を図る				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	1. 自己紹介 年間授業計画 2. スポーツライフマネジメントとは？ 3. 体力とは？				講義
	2	1. 体育実技 ドッチボール 3 チーム 8 分×6 試合				実技
	3	1.年齢に応じた運動・あそびのすすめ 2.トレーニングの生理学				講義
	4	1.体育実技 卓球 2 0 チーム ダブルス（一人 11 点×4 試合）				実技
	5	1.体育実技 バスケットボール 6 チーム 9 試合				実技
	6	1.体育実技 バトミントン 19 チーム ダブルス（一人 11 点×3 試合）				実技
	7.	1.講義 水分補給、熱中症対策 ビデオ				講義
	8.	1.体育実技 バレーボール 6 チーム（一人 4 試合 10 分）				実技
	9.	1.体育実技 卓球 ダブルス 20 組（一人 5 試合 11 点）				実技
	10.	1.体育実技 フットサル 6 チーム 全 9 試合（一人 3 試合）				実技
	11.	1.体育実技 バスケットボール 7 チーム 7 試合×6 分				実技
	12.	1.RICE 処置 2.ホルモンの定義				講義
	13.	1.体育実技 ソフトテニス				実技
	14.	1.体育実技 ドッジボール 3 試合				実技
	15.	終講試験				筆記試験
評価方法		筆記試験 100 点満点				
テキスト		筋・骨メカニクス リハビリ、スポーツのための機能解剖学；秀和システム				
参考図書						
Message		健康生活を支える運動について考え、自己の体力づくりと共にしっかり身体を動かし、心身のリフレッシュを図りましょう。				
教員の 実務経験		実務経験なし				

授業科目	人体の構造と機能 解剖生理学Ⅰ (総論・神経・筋骨格と生殖器他)		1 年次	1 単位	担当者	前田 裕子
			前期	3 0 時間		
目的 目標	目標：人体の各器官系統と、その働きについて学び、人体の構造と機能を統合して理解できる。					
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	総論 人体の区分 ①				講義 パワーポイント 資料
	2	人体の区分 ②				
	3	細胞の分裂、上皮組織、支持組織				
	4	骨組織、軟骨組織、筋組織、神経組織の区分				
	5	骨格(頭部の骨)、関節の種類				
	6	骨格(脊椎、上肢、下肢：骨盤まで)				
	7	骨格(自由下肢の骨格)、筋系(頭部、顔面)				
	8.	筋系 (背部、腹部、上肢、下肢)				
	9.	大腿・下腿の筋、筋の生理、神経の構造				
	10.	自律神経の構造と機能、脊髄				
	11.	大脳の構造と機能、延髄、橋、中脳の構造と機能、間脳の機能 小脳の構造				
	12.	末梢神経(脳神経、脊髄神経)				
	13.	脳波、睡眠、伝導路(反射、上行・下行伝導路) 感覚器(視覚)				
	14.	感覚器(聴覚・味覚・嗅覚) 男性生殖器系				
15.	女性生殖器系					
評価方法	筆記試験 100 点満点					
テキスト	「解剖生理学」 ナーシンググラフィカ メディカ出版					
参考図書	資料随時配布					
Message	人体の構造はどうなっているのだろうかという疑問を想起し素朴な疑問を持って学習に臨みましょう。また看護を行う上で土台となる知識なので、覚えるのではなく理解して学習を進めることが大切です。					
教員の 実務経験	実務経験なし					

授業科目		人体の構造と機能 解剖生理学Ⅱ (総論・神経・筋骨格と生殖器他)	1 年次	1 単位	担当者	前田 裕子
			前期	3 0 時間		
目的 目標		目標：人体の各器官系統と、その働きについて学び、人体の構造と機能を統合して理解できる。				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	呼吸器系(鼻・咽頭・喉頭・喉頭・気管気管支・肺胞)				講義 パワーポイント 資料
	2	呼吸のしくみ、呼吸の生理				
	3	循環器系(心臓の構造としくみ、血管の生理)				
	4	血管の総論、動脈系血管				
	5	静脈系血管、胎生期の循環、リンパ体幹				
	6	リンパ節、胸腺、脾臓 消化器系(口腔・歯・唾液腺)				
	7	消化器系(胃・小腸・大腸、排便のしくみ)				
	8.	消化器系(肝臓・脾臓)、腹膜、血液(赤血球)				
	9.	血液(白血球・血小板)、止血、血液型				
	10.	血漿、泌尿器系(腎の構造、尿道、膀胱、尿管)				
	11.	排尿のしくみ、体液(水の出納、電解質,PH の異常)				
	12.	免疫(体液性免疫、細胞性免疫、抗体の種類、 T リンパ球・B リンパ球の種類)				
	13.	免疫の異常(アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全症) 体温の調節、ホルモンの種類(ステロイド、ペプチド、アミン等)				
	14.	下垂体―視床下部ホルモン、甲状腺ホルモン、血糖値を調整するホルモン 血中 Ca 濃度&調整するホルモン				
15.	副腎皮質・髄質ホルモン、性ホルモン、その他のホルモン					
評価方法		筆記試験 100 点満点				
テキスト		「解剖生理学」 ナーシンググラフィカ メディカ出版				
参考図書		資料随時配布				
Message		人体の構造はどうなっているのだろうかという知識を想起し素朴な疑問を持って学習に臨みましょう。また看護を行う上で土台となる知識なので、覚えるのではなく理解して学習を進めることが大切です。				
教員の 実務経験		実務経験なし				

授業科目	人体の構造と機能 生化学(栄養学含む)		1 年次	1 単位	担当者	松本 香織
			前期	3 0 時間		
目的 目標	目標： 1．人間の栄養と代謝、恒常性とその調節について学び、人間の生命現象のメカニズムを理解する 2．食と健康の関わりの中で、食事療法の意義、実際に理解する					
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	生体の成り立ちと生体分子				講義 資料適宜
	2	生体を構成する物質、タンパク質の性質				
	3	酵素の性質と働き				
	4	細胞・アミノ酸・タンパク質・酵素、糖質の代謝				
	5	糖質の代謝				
	6	糖質の代謝				
	7	脂質の代謝				
	8	タンパク質の代謝				
	9	糖質・脂質・タンパク質の代謝				
	1 0	糖質・脂質・タンパク質の代謝、核酸の役割				
	1 1	核酸の役割				
	1 2	遺伝情報、栄養とは				
	1 3	日本人の食事摂取基準、基礎代謝、入院患者のための食事調整				
	1 4	食物と栄養、疾患別の食事、経管栄養と中心静脈栄養				
	1 5	終講試験(解説)				
評価方法	筆記試験 100 点満点					
テキスト	「臨床生化学」 ナーシンググラフィカ メディカ出版 「臨床栄養学」 ナーシンググラフィカ メディカ出版					
参考図書						
学生への Message	この授業は、生化学の専門分野の知識を深める授業になります。また、臨床で役立つ食生活指導の実際も含まれます。しっかり教科書に目をとおりイメージを図り授業に臨んで下さい。					
教員の 実務経験	管理栄養士としての実務経験を 10 年以上有し講義にあたっている。					

授業科目		疾病の成り立ちと回復の促進 疾病治療論Ⅰ (総論・眼科系・耳鼻科系)	1 年次	1 単位	担当者	中川 三郎 久門 義正 山 村 匡
			前期	3 0 時間		
目的 目標		目標: 疾病の原因や成り立ちを理解し、形態による分類や全体の反応について理解する。				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	病理で学ぶこと、細胞・組織の障害と侵襲				講義 パワーポイント 資料
	2	循環障害				
	3	炎症と免疫、移植と再生医療				
	4	感染症				
	5	代謝障害				
	6	老化と死				
	7	先天異常、遺伝子異常				
	8.	腫瘍 ①				
	9.	腫瘍 ②				
	10.	外耳・中耳・内耳の解剖生理、疾患、中耳手術				
	11.	聴覚・めまい鼻、聴力伝導、検査、治療				
	12.	咽頭・喉頭・嚥下障害の病態・症状・検査				
	13.	眼の構造と機能、病態生理、検査				
	14.	眼科領域における検査、治療				
15.	疾患の理解					
評価方法		筆記試験				
テキスト		「病態生理学」 ナーシンググラフィカ メディカ出版 「疾患と看護（眼・耳鼻咽喉）」 ナーシンググラフィカ EX 6 メディカ出版				
参考図書						
Message		病理学総論は病気の原因・経過及び結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることにより病気の本態を究明する学問です。正常な人間の構造と機能とともに重要な学問ですから、解剖生理学等の既習学習を復習して臨みましょう。				
教員の 実務経験		各々が医師としての実務経験を 25 年以上有し講義にあたっている				

授業科目		疾病の成り立ちと回復の促進 疾病治療論Ⅱ (呼吸器系疾患・循環器系疾患)	1 年次	1 単位	担当者	中川 三郎 浅川 敬太
			前期	3 0 時間		
目的 目標		目標：疾病の原因や成り立ちを理解し、形態による分類や全体の反応について理解する。				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	呼吸器の構造と機能				講義 パワーポイント 資料
	2	呼吸器症状と病態生理 ①				
	3	呼吸器症状と病態生理 ②				
	4	呼吸器疾患の検査				
	5	肺疾患の治療、処置 ①				
	6	肺疾患の治療、処置 ②				
	7	感染症、結核				
	8.	間質性肺疾患、気道疾患				
	9.	呼吸不全、肺腫瘍				
	10.	循環器疾患の病理所見、				
	11.	心電図と不整脈				
	12.	虚血性疾患				
	13.	弁異常と先天異常と心筋症、心不全、肺性心など				
	14.	高血圧				
15.	動・静脈、リンパ管疾患					
評価方法		筆記試験 100 点				
テキスト		「疾患と看護（呼吸器）」 ナーシンググラフィカ EX1 メディカ出版 「疾患と看護（循環器）」 ナーシンググラフィカ EX2 メディカ出版				
参考図書						
Message		生命に直結し系統の関連性があるので、しっかり解剖生理学を復習し授業に臨んで下さい。 そうすると関連性が理解できると思います。				
教員の 実務経験		各々が医師としての実務経験を 10 年以上有し講義にあたっている				

授業科目		疾病の成り立ちと回復の促進 疾病治療論Ⅲ (血液・造血系、内分泌・代謝系、 皮膚・アレルギー・膠原病)	1 年次	1 単位	担当者	陰 山 克 松浦 純平 堀 木 聡
			前期	3 0 時間		
目的 目標		目標: 疾病の原因や成り立ちを理解し、形態による分類や全体の反応について理解する。				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	血液の成分と機能				講義 パワーポイント 資料
	2	病歴聴取と身体所見、症候とその病態生理				
	3	赤血球の異常、白血球の異常				
	4	造血器腫瘍と治療、骨髄腫および類縁疾患				
	5	出血性疾患(血管異常及び血小板異常、凝固異常)				
	6	内分泌総論				
	7	甲状腺、副甲状腺、副腎皮質、副腎髄質、性腺等				
	8.	巨人症、尿崩症、甲状腺亢進・低下症				
	9.	糖尿病				
	10.	糖尿病合併症 ①				
	11.	糖尿病合併症 ②、脂質代謝				
	12.	メタボリック、高尿酸血症、電解質				
	13.	皮膚の構造、生理				
	14.	湿疹皮膚炎群、蕁麻疹、天疱瘡				
15.	感染症、悪性腫瘍					
評価方法		筆記試験 100 点満点				
テキスト		「疾患と看護 (血液)」ナーシンググラフィカ EX4 メディカ出版 「疾患と看護 (内分泌)」ナーシンググラフィカ EX8 メディカ出版 「疾患と看護 (アレルギー・皮膚)」ナーシンググラフィカ EX4, 6 メディカ出版				
参考図書						
Message		この科目は、全身への影響が大きく生命に直結しますが、内部環境の恒常性の維持に関与して難しいという印象があると思います。いずれにしても、解剖生理学が重要ですから既習学習をして臨みましょう。				
教員の 実務経験		二人が医師としての実務経験を 20 年以上有し講義にあたっている 一人は看護師および大学教員として 20 年以上有し講義にあたっている				

授業科目		疾病の成り立ちと回復の促進 疾病治療論Ⅳ (消化器系・脳神経系)	1 年次	1 単位	担当者	良元 文弘 米澤 泰司
			前期	3 0 時間		
目的 目標		目標: 疾病の原因や成り立ちを理解し、形態による分類や全体の反応について理解する。				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				講義 パワーポイント 資料
	1	消化器の検査と治療 ①				
	2	消化器の検査と治療 ②				
	3	食道・胃・十二指腸				
	4	腸の疾患・肝炎				
	5	肝不全・肝硬変・脾疾患				
	6	手術侵襲と生体反応、麻酔法				
	7	全身麻酔(呼吸管理)				
	8.	全身麻酔(呼吸管理、栄養・体液管理)、 低侵襲手術				
	9.	末梢神経系・血管の解剖生理				
	10.	脳神経系の症状と病態生理				
	11.	検査・診断と治療・処置				
	12.	クモ膜下出血				
	13.	脳血管障害 (CVD) : 脳梗塞、脳出血				
	14.	CVD : クモ膜下出血、もやもや病				
15.	頭部外傷 脳腫瘍、脳ヘルニア、					
評価方法		筆記試験				
テキスト		疾患と看護 (消化器) ナーシンググラフィカ EX 3 メディカ出版 疾患と看護 (脳神経) ナーシンググラフィカ EX 5 メディカ出版				
参考図書						
Message		食えることや排泄することは日常的で、消化器系が障害されることはイメージしやすいと思います。また脳神経系の障害は日常生活に大きな影響を与えるところです。いずれにしても解剖生理学の知識が重要です。手術療法については新たな専門的な知識の学習になると思います。いずれにしても解剖生理学の復習をして臨みましょう。				
教員の 実務経験		各々が医師としての実務経験を 30 年以上有し講義にあたっている				

授業科目		疾病の成り立ちと回復の促進 疾病治療論Ⅴ (運動器系・腎系・泌尿器系・ 女性生殖器系)	1 年次	1 単位	担当者	河口 泰之 塚田 直紀 栗岡 英行 吉 川 聡 好川 元庸
			前期	3 0 時間		
目的 目標		目標：疾病の原因や成り立ちを理解し、形態による分類や全体の反応について理解する。				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	運動器症状とその生理				講義 パワーポイント 資料
	2	運動器疾患の診察と診断				
	3	骨折、捻挫、打撲、神経損傷				
	4	内因性の運動器疾患(先天性疾患)				
	5	内因性の運動器疾患(骨腫瘍、上肢)				
	6	内因性の運動器疾患(脊椎の疾患)				
	7	腎・泌尿器の構造と機能、腎不全の病態生理				
	8.	急性・慢性腎不全、透析治療、尿検査・腎機能検査				
	9.	腎移植、腎疾患各論				
	10.	尿路の通過障害と機能障害				
	11.	尿路・性器の腫瘍				
	12.	女性生殖器の構造と機能				
	13.	子宮疾患、卵管・卵巣腫瘍				
	14.	乳房疾患				
15.	不妊症					
評価方法		筆記試験 100 点満点				
テキスト		「疾患と看護（運動器）」ナーシンググラフィカ EX7 メディカ出版 「疾患と看護（腎・泌尿器）」ナーシンググラフィカ EX8 メディカ出版 「疾患と看護（女性生殖器）」ナーシンググラフィカ EX9 メディカ出版				
参考図書						
Message		解剖生理微生物などの知識が必要です。学習進度も速いのでしっかり復習をして臨みましょう。				
教員の 実務経験		各々が医師として 10 年以上の実務経験を有し講義にあたっている				

授業科目		疾病の成り立ちと回復の促進 微生物学		1 年次	1 単位	担当者	笠原 敬
				前期	30 時間		
目的 目標		目標：微生物の性状、病原性とそれによって生じる病態としての感染症を理解する。さらに感染症の発生動向、行政対応、治療および予防介入について理解する					
授 業 計 画	回数	講 義 内 容					備 考
	1.	1. 微生物と微生物学		2. エネルギー代謝と物質代謝			講義
	2.	1. 分裂と増殖		2. 原虫の伝播経路、感染様式			講義 資料
	3.	1. ウイルスの性質		2. 個体間のウイルスの広がり			講義
	4.	1. 感染に対する生体防御機構		2. 自己寛容と自己免疫			講義
	5.	1. 感染源、感染経路からみた感染症 2. 消毒薬に対する病原体の抵抗性					講義 資料
	6.	1. 感染予防の理念と実際		2. その他の治療法			講義
	7.	1. 感染症の現状と対策		2. 百日咳菌			講義
	8.	1. グラム陰性 通性菌 2. ヘリコバクター・ピロリー菌					講義 資料
	9.	1. グラム陽性 桿菌		2. スピロヘータ			講義 資料
	10.	1. ボレリア 2. 大腸バランチジウム					講義
	11.	1. DNA ウイルス 2. 狂犬病ウイルス					講義
	12.	1. 狂犬病ウイルス 2. ヒト免疫不全ウイルス					講義
	13.	1. 肝炎ウイルス 2. プリオン					講義
	14.	1. 問題集演習					講義
15.	終講試験					筆記試験	
評価方法		筆記試験 100 点満点					
テキスト		臨床微生物・医動物 ナーシンググラフィカ メディカ出版					
参考図書							
Message		近年感染症は医療に於いて重要な課題となっています。特に病院における感染症の発現とインフルエンザやエイズのような世界的な広がりをもたらす病原体について正確な知識を持つことによって、臨床現場で役立てましょう。					
教員の 実務経験		医師としての実務経験を 20 年以上有し講義にあたっている。					

授業科目		疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学	1 年次	1 単位	担当者	福田 里美
			後期	30 時間		
目的 目標		目標：薬理作用の基礎知識に基づき、薬物の特徴、作用機序、人体への影響および薬物の管理について理解できる				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1.	薬物療法の目的、薬理作用の用語解説、治療域と安全性の問題 受容体の種類と作用薬、拮抗薬の違い、経口与薬と注射薬の特徴				講義 パワーポイント 資料
	2.	薬の投与経路、薬物動態に係る要因と注意事項 半減期と血中濃度モニタリングの意義、新生児、高齢者の薬物療法の注意点				
	3.	薬物耐性と依存の問題、薬物動態学および薬力学的要因からくる副作用 腎障害、肝障害患者の注意点、臓器特異性副作用が生じる薬剤				
	4.	受容体が関係する副作用、管理医薬品の種類と注意、新薬開発の流れ、感染症 治療の用語説明、ペニシリン系、セフェム系、アミノグリコシド系抗生剤				
	5.	テトラサイクリン系、マクロライド系、ニューキノロン系の特徴、副作用 抗結核薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、抗がん薬の基本的事項と各種作用機序				
	6.	免疫のしくみ、免疫抑制薬と増強薬、抗炎症薬の作用機序と副作用のおこる仕 組み、アラキドン酸カスケード、副腎皮質ステロイドの副作用				
	7.	抗リウマチ薬の作用、痛風治療薬の特徴、作用点の違い、自律神経の基礎 受容体の種類、伝達物質の違い、作用薬、拮抗薬の臨床作用について				
	8.	副交感神経受容体に対しての作動薬、拮抗薬について、筋弛緩薬の種類と作用 機序、麻酔薬・催眠薬の使用方法について				
	9.	抗精神病薬の作用の仕方と副作用.うつ状態の発現と抗うつ薬の作用点、てん かん、発作の型と抗てんかん薬の使い分け、麻薬性鎮痛薬の基本作用と治療上 の注意点				
	10.	降圧薬について、狭心症治療の考え方、うつ血性心不全におけるジギタリスの 効果				
	11.	ジギタリス以外のうつ血性心不全治療薬、利尿薬の薬理作用 不整脈治療薬の分類、脂質異常の治療薬剤、貧血症の原因の区別と治療方法				
	12.	抗凝固薬のヘパリン・ワファリン・血栓溶解薬・気管支喘息治療・消化性潰 瘍薬の種類と作用機序と問題点、さまざまなホルモン関連薬				
	13.	糖尿病用薬の種類と効能、骨粗鬆症治療薬、ビタミン剤の区別、欠乏症 皮膚科、眼科用剤、消毒薬の使用目的と使い分け、輸液剤の種類と使用目的				
	14.	要点まとめ				
15.	終講試験 問題解説					
評価方法		筆記試験 100 点満点				
テキスト		「臨床薬理学」ナースンググラフィカ メディカ出版				
参考図書		適宜資料の配布あり				
Message		看護師は患者と接する機会が最も多く薬物治療を受けている患者の回復に果たす役割は大きい。 患者がよい治療効果を得られるように薬物治療への理解を深め、看護実践で活かせるよう予習復 習を行い積極的に授業に臨みましょう。				
教員の 実務経験		薬剤師として実務経験を 10 年以上有し講義にあたっている				

授業科目	健康支援と社会保障制度 総合医療論		1 年次	1 単位	担当者	上川 比呂勝
			前期～後期	15 時間		
目的 目標	目標：現代の保健・医療・福祉の現状とその問題を理解し、看護師としての役割を理解する					
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1.	1. 医療システム コメディカルスタッフ、施設、医療保険、介護保険				講義 資料
	2.	1. 医療保険 各国との比較 2. 介護保険制度				
	3.	1. 救急医療 2. 災害医療 トリアージ クラッシュシンドローム				
	4.	1. 医療安全 健康格差 2. ヘルスプロモーション				
	5.	1. 老化とは 精神病 ノーマライゼーション 2. 近代医療の誕生				
	6.	1. 日本の近代化と医療の発達 薬害 医療機器 臓器移植 ゲノム医療 胎児診断 2. 医療の国際化				
	7.	1. 補完医療 患者の権利 インフォームドコンセント 2. 安楽死 尊厳死				
	8	終講試験				
評価方法	筆記試験 100 点満点					
テキスト	健康と社会・生活 ナーシンググラフィカ メディカ出版					
参考図書	適宜資料配布					
Message	これからの医療の特徴は専門性が異なるコメディカルスタッフがチームを組み、連携を図りながら質の高い医療サービスを展開する必要があります。そのために講義では専門職に共通する医療の基礎知識を学習していきましょう。					
教員の 実務経験	医師としての実務経験を 15 年以上有し講義にあたっている。					

授業科目	健康支援と社会保障制度 公衆衛生		1 年次	1 単位	担当者	村上 由希
			前期	15 時間		
目的 目標	目標：人々を取り巻く環境や疫学・保健統計を学び、健康保持・増進・予防のための保健活動を理解する					
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1.	1. 公衆衛生と健康の概念 2. 保健統計・健康の指標				講義 資料
	2.	1. 集団の健康を捉えるための手法－疫学 2. 感染症とその予防対策				
	3.	1. 環境保健（生活の保全と食品の安全） 2. 成人保健と健康増進法				
	4.	1. 地域保健活動と保健行政 2. 母子保健				
	5.	1. 学校保健（子どもの保健） 2. 産業保健（職業生活と保健）				
	6.	1. 高齢者の保健・医療・介護 2. 精神保健福祉（障害者・難病対策）				
	7.	1. 国際保健医療 2. 保健医療福祉の制度と法規 まとめ				
	8	終講試験(筆記試験)				
評価方法	筆記試験 （4 5 分間） 100 点満点					
テキスト	公衆衛生 ナーシンググラフィカ メディカ出版					
参考図書	適宜資料配布 公衆衛生がみえる 2020-2021 シンプル衛生公衆衛生学					
Message	公衆衛生の領域は、様々な仕事（資格）で基本的な理解が求められています。そのため、国家試験で多くの問題が出題され、必須科目としても重要です。本講義では、基礎知識を中心に習得していきます。ごみ収集・生活習慣病対策などの身近な問題から、感染症予防・公害対策などの社会保障の基礎となる分野について学習していきます。公衆衛生学は必須科目として、覚えることが非常に多いので、講義の限られた時間を有効に活用できるように、事前に教科書に目を通し、当日の学習プリントでの予習を行い、授業に臨んでください。					
教員の 実務経験	実務経験なし					

授業科目	健康支援と社会保障制度 看護関連法規		2 年次	1 単位	担当者	森本 美佐
			前期	15 時間		
目的 目標	目標：保健・医療・福祉の法律の概要を学習し、人々の健康を守る看護職に必要な法規について学ぶ。					
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備考
	1.	1. 看護関係法規授業のガイダンス ・准看護課程で学んだことは各自復習しておく ・GW の課題はメンバー全員で調べ発表する ・法の解釈、問題点、改正されたことなどを主に調べる 2. 何故「法律」を学ぶのか 3. 法の概念 4. 練習問題				講義
	2.	1. 看護職の基盤となる法規：保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の促進に関する法について 2. 練習問題				講義
	3.	1. 看護実践と医療法、医療関係資格法、医療を支える法の関りについて GW の課題事例について 2. 練習問題				講義
	4.	1. 課題について GW				GW（授業開始までに自己で課題学習を実施しておく）
	5. 6. 7.	1. 医療を支える法 2. 保健衛生法 3. 薬務法 4. 社会保険法 5. 福祉法 6. 労働法 7. 環境法 8. 医療過誤と法的責任：民事責任、刑事責任、行政責任 GW の発表まとめ 9. 練習問題				発表は 1 コマ 3 事例
	8.	終講試験 解説				45 分
	評価方法	筆記試験 （4 5 分間） 100 点満点				
テキスト	看護をめぐる法と制度 平林勝政他著 ナーシンググラフィカ メディカ出版					
参考図書	適宜資料配布 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令 森山幹夫著 医学書院					
Message	法を単に知識として学ぶだけでなく、なぜこのような内容になっているのか、看護との関係はどうなのかについて、日常生活や看護業務での経験、さらにテレビ、新聞、インターネットなどからの情報とも関連づけて学習するように、特に GW では積極的に参加することの意味について振り返りを行い、授業に臨んでほしい。					
教員の 実務経験	看護師の実務経験 5 年、専任教員としての実務経験を 30 年以上有し講義にあたっている。					

授業科目	健康支援と社会保障制度 社会福祉		1 年次	1 単位	担当者	吉川英雄
			前期	30 時間		
目的 目標	目標：社会福祉と社会保障について学習し、人々のニーズや社会資源の活用方法を理解する。 社会福祉における看護師の役割を理解する					
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1.	現代社会と社会福祉・社会保障				
	2.	暮らしと社会福祉・社会保障①（定義、社会保障制度）				
	3.	暮らしと社会福祉・社会保障②（社会福祉と保健）				
	4.	福祉の実践、資源の活用				
	5.	ライフサイクルと社会福祉①（母子）				
	6.	ライフサイクルと社会福祉②（障害者、難病）				
	7.	ライフサイクルと社会福祉③（高齢者）				
	8.	生活保護				
	9.	地域福祉				
	10.	社会保障（社会保険）制度①（年金制度）				
	11.	社会保障（社会保険）制度②（医療保険制度）				
	12.	社会保障（社会保険）制度③（介護保険制度）				
	13.	社会保障（社会保険）制度④（雇用保険制度）				
	14.	生活と福祉				
	15.	終講試験・まとめ				
評価方法	筆記試験 100 点満点					
テキスト	健康支援と社会保障③社会福祉と社会保障 ナーシング・グラフィカ メディカ出版					
参考図書	適宜資料配布					
Message	日常生活の中で社会保障内容や社会福祉の制度や施策には具体的にどのようなものがあるのか、予備知識をもって講義に臨ませたいと思います。					
教員の 実務経験	社会福祉士として 10 年以上の実務経験を有し講義にあたっている。					

授 業 科 目		基礎看護学援助論Ⅰ (看護の本質、安全・安楽 コミュニケーション)	年 次	1 年次	単 元	1 単位	担 当 者	森本 美佐 杉田 香苗
目 的 目 標		1. 「看護技術とは何か」について考えることができる。 2. 看護の方法としての技術の考え方を深める。 3. 感染防止のための実践の重要性や医療従事者の安全確保の技術について理解する。 4. 援助的人間関係の形成について理解する。						
授 業 計 画	回数	講 義 内 容					備 考	
	1	看護技術とは					講義・演習・実験 パワーポイント・資料	
	2	苦痛の緩和・安楽確保の技術						
	3	苦痛の緩和・安楽確保の技術						
	4	薬法						
	5	感染防止の技術						
	6	感染防止の技術						
	7	安全確保の技術						
	8	コミュニケーションの意義と目的						
	9	コミュニケーションの構成要素						
	10	関係構築のためのコミュニケーション						
	11	効果的なコミュニケーションの実際						
	12	効果的なカンファレンス①						
	13	効果的なカンファレンス②						
	14	コミュニケーション障害への対応						
	15	終講試験						
評価方法		筆記試験 100 点満点 出席状況、授業態度他						
テキスト		基礎看護技術Ⅰ（医学書院）、基礎看護技術Ⅱ（医学書院）						
参考図書		基礎看護技術（メヂカルフレンド社）実践に生かす看護理論 19 第2版（サイオ出版） 基礎看護技術（ナーシンググラフィカ） 演習・実習に役立つ基礎看護技術（ヌーヴェルヒロカワ）						
Message		看護技術を学ぶにあたり、「技術とは何か」について改めて考えてみましょう。 なかでも、安全・安楽は、看護援助に共通する技術として、看護援助を行う際にいつでも念頭に置かなければなりません。また看護技術の実践では、人と人との間に看護技術が提供され、なんらかの変化がおこる相互の関係性を基盤にしています。対象者のプライバシーを守り、尊厳を守る姿勢が患者さんの自由を尊重し、意思決定を支援することに繋がります。科学的根拠に基づき、多職種で連携することができる技術が実践できるように臨みましょう。						
教員の 実務経験		各々看護師としての実務経験 5 年以上及び専任教員として 10 年以上の経験を重ね講義にあたっている。						

授業科目	基礎看護学援助論Ⅱ (フィジカルアセスメント)	年次	1 年次	単位	1 単位	担当者	芦原 由里
			後期	時間	15 時間		
目的 目標		目的： フィジカルアセスメントの意義と目的を理解し、必要な技術を学ぶ。 目標： 1. 基本的なフィジカルイグザミネーション技術を正確かつ安全・安楽に実施できる。 2. フィジカルイグザミネーションで得られた情報を正しく表現できる。 3. 得られた客観的データから、身体の正常な状態がわかる。					
授業計画	回数	講義内容					備考
	1	1. フィジカルアセスメントの意義 2. 問診 3. 視診、触診、打診、聴診の技術の実践					講義 パワーポイント・資料 演習
	2	1. 生命を維持する機能のフィジカルアセスメント					
	3	1) 循環系 2) 呼吸系					
	4	1. 食べる・栄養を取り込む・排泄する機能のフィジカルアセスメント 1) 消化器系					
	5	1. 身体を動かす機能のフィジカルアセスメント 1) 筋・骨格系 2) 神経系					
	6	1. 見る・聴く・嗅ぐ・触れる・話す機能のフィジカルアセスメント 1) 感覚器系					
	7	1. 身体を守る機能のフィジカルアセスメント					
	8	終講試験 (45 分)					
	評価方法		出席状況、授業態度、終講試験				
テキスト		ナーシンググラフィカ ヘルスアセスメント 基礎看護学②：メディカ出版					
参考図書		山内豊明：フィジカルアセスメント ガイドブック目と手と耳でここまでわかる，医学書院 茂野香おる：基礎看護技術Ⅰ，医学書院					
message		患者さんの状態を判断し、必要なケアができるようにするために、適切なフィジカルアセスメントができることをめざしましょう。					
教員の 実務経験		看護師として実務経験 14 年及び専任教員として 5 年以上の経験を有し講義にあたっている。					

授業科目	基礎看護学援助論Ⅲ (看護過程)	年次	1 年次	単位	1 単位	担当者	杉田 香苗
			前期	時間	30 時間		
目的 目標	・看護過程とは何かがわかる。 ・看護過程の構成要素がわかり、各段階についてその基本的な考え方と実際を学ぶ。 ・事例を通して看護展開の実際を学ぶ。						
授業計画	回数	講義内容				備考	
	1	『看護過程』とは				看護診断ハンドブック	
	2	看護過程を展開する際に基盤となる考え方					
	3	アセスメント①～情報収集～					
	4	アセスメント②～情報収集の方法と分析～					
	5	アセスメント③～全体像の把握～					
	6	関連図の作成					
	7	看護問題の明確化①～看護問題のみきわめ～					
	8	看護問題の明確化②～看護問題の優先順位～					
	9	看護計画～期待される成果の明確化と計画の立案～					
	10	事例を通して①～アセスメント～				個人ワーク グループワーク 個人ワーク グループワーク	
	11	事例を通して②～関連図～					
	12	事例を通して③～看護問題の明確化～					
	13	事例を通して④～看護計画の立案～					
	14	評価・修正と看護記録					
	15	終講試験とまとめ					
評価方法	筆記試験、提出物 100 点満点						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I (医学書院) 看護診断ハンドブック						
参考図書	実践に生かす看護理論 19 第 2 版 (サイオ出版)						
message	看護過程は、看護を実践するうえでとても必要な思考です。この思考を学び全体をとらえ、どのような看護が必要か考えられるように学びましょう。						
教員の 実務経験	看護師として実務経験 15 年以上及び専任教員として 10 年以上の実績を積み講義にあたっている。						

授業科目		基礎看護学援助論Ⅳ (日常生活の援助)	年次	1 年次	1 単位	担当	牧瀬 真由美 嶋田 もとみ
				前期	30 時間		
目的 目標		目 的： 1. 日常生活援助における基礎的理論や技術を習得し、根拠に基づいた看護実践ができる 基礎的能力を養う 学習目標： 1. 対象者の日常生活を整えるために必要な環境・活動・食事・排泄・睡眠・清潔・衣生活に関する 基礎的知識・技術・態度が習得できる。 2. プライバシーに配慮し、看護技術を原理・原則に基づき安全・安楽に実施する方法が習得できる。					
授 業 計 画	回数	講 義 内 容					備 考
	1	1. 病床環境の調整の基礎知識 2. 病床環境の援助					講義
	2	3. リネン交換・環境整備					演習
	3	1. 食事援助の基礎知識 2. 栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメント 3. 摂食・嚥下訓練 4. 非経口的栄養摂取の援助					講義
	4	1. 食事介助					演習
	5	1. 自然排泄の基礎知識					講義
	6	1. 自然排泄の介助 2. 排泄障害時の援助					講義
	7	1. 活動の援助技術・睡眠・休息の援助技術					講義
	8	1. 移動・移乗の援助の実際					演習
	9	1. 清潔の援助技術					講義
	10	1. 衣生活の援助技術					講義
	11 12	1. 全身清拭・寝衣交換の実施					演習
	13 14	1. 洗髪の実施					演習
	15	1. 終講試験 2. まとめ					
	評価方法		筆記試験、課題提出、演習参加状況、出席日数、授業態度 100 点満点				
テキスト		基礎看護技術Ⅱ（医学書院）					
参考図書		基礎看護技術講義・演習ノート（医学芸術社） 看護ケアの根拠と技術（医歯薬出版株式会社） 基礎看護技術Ⅱ（メヂカルフレンド社） 看護技術がみえる①②（メディクメディア） 写真でわかる実習で使える看護技術（インターメディカ）					
Message		基礎看護技術は看護学の基盤です。そのなかでも、日常生活援助とは人間が健康的に生きていく ために必要不可欠な援助技術です。対象者にとって必要な援助とは何かを考え、対象者に応じた 援助が提供できるよう、学習を深めていきましょう。					
教員の実務 経験		各々が実務経験 5 年以上及び専任教員として 5 年以上の経験を重ね講義にあたっている。					

授業科目		基礎看護学援助論Ⅵ (臨床看護総論)	1 年次	1 単位	杉田 香苗 牧瀬 真由美
			後期	30 時間	
目的・目標		1. 基本的な看護の知識や技術を統合し、看護実践に応用するプロセスを学ぶ 2. 事例患者を通して経過・症状・治療から看護実践を導く科学的根拠がわかる 3. グループワーク・発表を通して学習を共有するすべを身につけ、他者に伝えることができる			
授 業 計 画	回数	講義内容			備考
	1	Ⅰ. 臨床看護総論とは Ⅱ. 主要な症状を示す対象への看護① ◇ 症状とは ◇ 呼吸器障害 ◇ 循環器障害 ◇ 安楽に関連する症状			講義 グループワーク
	2	Ⅱ. 主要な症状を示す対象への看護②③			講義 グループワーク
	3	◇ グループワーク			
	4	Ⅱ. 主要な症状を示す対象への看護④ ◇ グループワーク発表			発表会
	5	Ⅲ. 治療・処置を受ける対象への看護① ◇ 化学療法 ◇ 放射線療法			講義
	6	Ⅳ. 治療・処置を受ける対象への看護② ◇ 手術療法 ◇ 集中治療			講義
	7	Ⅴ. 創傷処置/創傷ケアを受ける人の看護 ◇ 創傷処置 ◇ 褥瘡処置			講義
	8	Ⅵ. 健康上のニーズをもつ対象者と家族への看護 ◇ ライフサイクル ◇ 家族の機能			講義
	9	Ⅶ. 健康状態の経過に基づく看護 ◇ 演習のすすめ方、事例紹介			講義 グループワーク
	10	グループワーク			グループワーク
	11	◇ 事例検討			
	12				
	13	学習成果確認			発表
	14				
15	まとめ 終講試験			講義 筆記試験	
評価方法		提出物 グループワーク参加度 終講試験			
参考図書		基礎看護技術（医学書院） 看護学概論（医学書院） 臨床看護総論（メディカ出版） 臨床外科看護総論（医学書院）			
Message		臨床看護総論は、健康障害をもつ対象者の状態に応じた看護を考え、実習直前に実践とつなげていく能力を育むための授業です。これまでの既習学習と重なる部分も多いので、事前学習・自己学習を積み、グループ学習での学びに貢献できる力も養いましょう。			
教員の 実務経験		実務経験に於いては看護師として9年以上及び専任教員として9年の経験を有し講義にあたっている。			

授業科目		成人看護学概論	1年次	1単位	担当者	芦原 由里
			前期	30時間		
目 的 目 標		1 成人各期にある対象の特徴について理解できる 2 成人期における保健問題・成人保健の動向について理解できる 3 成人期にある対象の健康に影響する因子を理解し、健康を維持・増進するための看護の役割について理解できる				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	成人であるということ				講義
	2	成長発達の特徴 身体機能の特徴と看護				講義
	3	成人の生活を理解する視点と方法 健康観の多様性と看護				講義
	4	成人への看護アプローチ ヘルスプロモーション				講義
	5	生活習慣に関連する健康障害 ワークライフバランスと健康障害				講義
	6	グループワーク 施策				GW
	7	＜グループ発表＞ 施策				グループ発表
	8	学習の特徴と看護				講義
	9	ストレス/セルフケア				講義
	10	危機/自己効力				講義
	11	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護				講義
	12	慢性病との共存を支える看護 病みの軌跡				講義
	13	障害がある人の生活とリハビリテーション				講義
	14	人生の最期のときを支える看護				講義
	15	終講試験：45 分 新たな治療法、先端医療と看護・まとめ（国家試験対策）：45分				試験 講義
評価方法		筆記試験 提出物 出席状況				
テキスト		ナーシング・グラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版				
参考図書		国民衛生の動向 2018/2019 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学① 医学書院				
Message		成人期は人生の中で最も長く、地域、職場、家庭において責任や役割を担う時期です。その段階にある人を全人的に理解するために学習していきます。内容が幅広い上に新しい言葉もたくさん出てきますので、しっかり予習復習していきましょう。				
教員の 実務経験		看護師として実務経験を 14 年及び専任教員の実務経験 5 年以上有し講義にあたっている				

授業科目	成人看護学援助論Ⅰ	年次	1 年次 後期	単位 時間	1 単位 30 時間	担当者	嶋田 もとみ
目的 目標	目標：１．成人期にある人々とその家族の特徴を理解し、成人みずから健康上の課題を解決できるための援助方法を学ぶ。 ２．成人の発達、生活習慣と疾患の発症、経過への影響を理解する。						
授業計画	回数	講義内容					備考
	1	循環機能障害をもつ成人の看護 1. 統計、解剖生理復習 疾患の経過と看護(急性期・回復期・慢性期)					講義 パワーポイント グループワーク
	2	2. 症状に対する看護(胸痛、動悸、浮腫、呼吸困難、チアノーゼ、失神)					
	3	3. 検査を受ける患者の看護(心臓カテーテル法、心電図、運動負荷試験、血行動態モニタリング、動脈血ガス分析、画像診断)					
	4	4. 治療を受ける患者の看護(薬物療法、カテーテル治療、手術療法)					
	5	5. 疾患をもつ患者の看護 (虚血性心疾患、心不全、血圧異常、不整脈)					
	6	内分泌機能障害をもつ成人の看護 1. 現代社会における内分泌・代謝疾患と看護 2. 解剖生理と内分泌疾患の特徴 3. パセドウ病患者的の看護					
	7	3. 主要疾患と看護 ①事例検討(パセドウ病患者) ②主な内分泌疾患(下垂体疾患、副甲状腺疾患 副腎疾患)					
	8	4. 主要疾患と看護 ①代謝疾患の特徴 ②糖尿病患者の看護					
	9	5. 主要疾患と看護 ①事例検討(糖尿病患者) ②主な代謝疾患					
	10	6. 主な代謝疾患 脂質異常症、メタボリックシンドローム、尿代謝異常					
	11	消化・吸収機能障害をもつ成人の看護 1. 消化管疾患と看護 ①解剖生理と消化管疾患の特徴②食道疾患患者の看護					
	12	2. 主要疾患と看護 ①胃・十二指腸疾患患者の看護(検査・治療・手術)					
	13	3. 主要疾患と看護 ①腸・腹膜疾患患者の看護(検査・治療・手術)					
	14	4. 主要疾患と看護 ①肝臓・胆嚢疾患患者の看護②膵臓疾患患者の看護					
	15	5. まとめ 終講試験					
評価方法	筆記試験 提出物						
テキスト	健康の回復と看護①循環器 ②消化器 ⑥内分泌 ナーシンググラフィカ メディカ出版 疾患と看護②循環器 ③消化器 ⑧内分泌 ナーシンググラフィカ EX メディカ出版						
参考図書	国民衛生の動向 病気がみえる(メディックメディア) ハートナーシング(メディカ出版) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(3)(5)(6) 医学書院						
Message	既習の解剖生理学、疾病治療論などの知識を活用し、疾患をもつ対象の看護における基礎知識を学習します。 解剖生理学、疾病治療の復習は勿論のこと、対象理解を深めるために基礎看護学概論、成人看護学概論の復習をして臨みましょう。						
教員の 実務経験	各々看護師として実務経験 5 年以上、専任教員経験 5 年以上を有し講義にあたっている						

授業科目	成人看護学援助論Ⅱ	年次	1 年次	単位	1 単位	担当者	米澤 慶子 中村 敦子 新谷 智美
目的 目標	目標：１．成人期にある人々とその家族の特徴を理解し、成人みずから健康上の課題を解決 2．成人の発達、生活習慣と疾患の発症、経過への影響を理解する。						
授 業 計 画	回数	講義内容					備考
	1	第 1 部 呼吸機能障害 1．酸素を取り込む機能とその障害					講義 パワーポイント グループワーク
	2	2．酸塩基平衡を保つ機能とその障害 1) 呼吸性アシドーシス、2) 呼吸性アルカローシス					
	3	3．特別な配慮を要する呼吸機能の検査と看護 1) 気管支鏡検査 2) 胸腔穿刺検査 3) 肺生検					
	4	4．呼吸機能障害がある患者の看護 1) 観察とアセスメント 2) 観察と看護					
	5	5．呼吸機能障害がある患者の看護の実際 事例：COPD、間質性肺炎					
	6	1．血液細胞のもつ諸機能の障害 1) 貧血 2) 白血球減少 3) 血小板減少および機能異常					
	7	1．血液細胞のもつ諸機能の障害 4) 凝固・線溶系の異常 5) 造血器の腫瘍					
	8	2．造血機能障害のある患者の看護 1) 貧血・白血球減少症・血小板減少症および機能異常のある患者の看護					
	9	2．造血機能障害のある患者の看護 2) 白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫患者の看護					
	10	2．造血機能障害のある患者の看護 3) 急性白血病患者の看護					
	11	1．脳・神経系の構造・機能とその障害 大脳、間脳、脳幹、小脳、脳神経、髄膜・脳室、脳の血管					
	12	2．脳・神経系の主な疾患 脳血管障害、脳腫瘍、脳外傷、水頭症、認知症など					
	13	3．脳・神経機能障害とその看護 1) 主な疾患と患者の看護 2) 特徴な症状とその看護					
	14	4．脳・神経機能障害患者の看護の実際 1) 脳梗塞患者の看護					
	15	4．脳・神経機能障害患者の看護の実際 2) くも膜下出血患者の看護 3) 頭部外傷患者の看護					
評価方法	筆記試験 提出物						
テキスト	ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護①③④ ：メディカ出版						
参考図書	国民衛生の動向 病気がみえる(メディックメディア)						
Message	既習の解剖生理学、疾病治療論などの知識を活用し、疾患をもつ対象の看護における基礎知識を学習します。対象理解を深めるために基礎看護学概論、成人看護学概論の復習をして臨みましょう。						
教員の 実務経験	各々看護師や教員としての実務経験を 10 年以上有し講義にあたっている。						

授業科目	成人看護学援助論Ⅲ	年次	1 年次	単位	1 単位	担当者	陣内 里江 永富 加代子 芦原 由里
目的 目標	目標： 1. 成人期にある人々とその家族の特徴を理解し、成人みずから健康上の課題を解決 できるための援助方法を学ぶ。 2. 成人の発達、生活習慣と疾患の発症、経過への影響を理解する。 3. 事例を用いて看護過程の展開を行い、成人期にある対象とその家族に応じた援助 ができる。						
授 業 計 画	回数	講義内容					備考
	1	第1章 腎疾患を学ぶための基礎知識					講義 パワーポイント グループワーク
	2	第2章 腎臓の疾患と看護					
	3	第4章 泌尿器疾患を学ぶための基礎知識					
	4	第 5 章 泌尿器の疾患と看護					
	5	第3章 事例で学ぶ腎疾患患者の看護 第6章 事例で学ぶ泌尿器疾患患者の看護					
	6	第 1 章 運動器疾患を学ぶための基礎知識					
	7	骨格系の運動機能障害がある患者への看護					
	8	脊椎の運動機能障害がある患者への看護					
	9	関節の運動機能障害がある患者への看護					
	10	筋肉の腫瘍・変性や神経に由来する運動機能障害がある患者への看護					
	11	事例展開：事例紹介（アセスメントの視点）					
	12	事例展開：アセスメント（ゴードン 11 パターン）					
	13	事例展開：関連図作成					
	14	事例展開：問題／看護診断 援助計画／介入策立案					
15	事例展開：援助計画／介入策確認 発表						
評価方法	筆記試験 提出物 出席状況						
テキスト	ナーシング・グラフィカ 疾患と看護⑧腎/泌尿器/内分泌・代謝 ：メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護⑤運動機能障害 ：メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 疾患と看護⑦運動器 ：メディカ出版						
参考図書	国民衛生の動向 病気がみえる(メディックメディア) 看護診断ハンドブック 今日の治療薬						
message	既習の解剖生理学、疾病治療論などの知識を活用し、疾患をもつ対象の看護における基礎知識を学習し ます。解剖生理学、疾病治療の復習は勿論のこと、対象理解を深めるために基礎看護学概論、成人看護 学概論の復習をして臨みましょう。看護実践のために必要な思考過程を学びましょう。						

授業科目	老年看護学援助論Ⅰ	年次	1 年次	単位	1 単位	担当者	吉村安紀美 小宮 欣恵 福岡 博美 長田 美鈴
		期	後期	時間	30 時間		
目的 目標	1. 老年期にある対象の特徴をふまえ、生活リズムの回復、自立生活の拡大、主要徴候に焦点をあてたアセスメントとケアの技法を理解する 2. 外科的治療を受ける老年期にある対象のマネジメントとケアの技法を理解する 3. 感覚機能に障害のある老年期にある対象の看護を理解する						
授業計画	回数	講義内容					備考
	1	高齢者の生活機能を整える看護					講義 資料 など
	2	①日常生活を支える基本的活動					
	3	②食事・食生活					
	4	③排泄					
	5	④清潔					
	6	⑤生活リズム・セクシュアリティ					
	7	⑥コミュニケーション					
	8	⑦社会参加					
	9	健康逸脱からの回復を促す看護（認知機能障害のある高齢者の看護）					
	10	エンドオブライフケア					
	11	①エンドオブライフケアの概念 ②「生きる」ことを支えるケア					
	12	③意思決定への支援 ④末期段階に求められる援助					
	13	生活・療養の場における看護 ①高齢者とヘルスプロモーション					
	14	②保健医療福祉施設および居住施設における看護					
	15	③治療・介護を必要とする高齢者を含む家族看護					
16	健康逸脱からの回復を促す看護						
17	①症候のアセスメントと看護 ②身体疾患のある高齢者の看護						
18	治療を必要とする高齢者の看護						
19	①検査を受ける高齢者の看護						
20	②薬物療法を受ける高齢者の看護						
21	③手術を受ける高齢者の看護						
22	④入院治療を受ける高齢者の看護						
評価方法	終講試験、学習態度						
テキスト	高齢者の健康と障害 高齢者看護の実践（メディカ出版）						
参考図書	国民衛生の動向（厚生労働統計協会） 老年看護学（医学書院）						
Message	老年期の特徴を事前学習し、老年期にある人を生活の視点か捉え看護を考える時間にしましょう。						
教員の 実務経験	各々、看護師として 15 年以上の経験を有し講義にあたっている。						

授 業 科 目		老年看護学援助論Ⅱ	年 次	1 年次	単 位	1 単位	担 当 者	新谷智美 梅田達成 杉村孝彰
				後期	時 間	30 時間		
目 的 目 標		1. 老年期にある対象の特徴をふまえ、生活機能の観点から看護過程が展開できる。 2. 自立した生活を維持するための具体的な方法が理解できる						
授 業 計 画	回数	講 義 内 容						備 考
	1	リハビリテーションとは PT・OT・STについて						講義
	2	杖、松葉杖の使い方						演習
	3	車いすの使用方法、自操について						
	4	MMT・ROMについて						
	5	リハビリテーションまとめ						
	6	レクリエーションとは ・レクリエーションの由来と目的						
	7	レクリエーション実演 ・導入、展開、整理の考え方						
	8	レクリエーション実技 グループワーク発表						グループワーク
	9	レクリエーション実技 グループワーク発表						
	10	レクリエーション実技 グループワーク発表 講義（まとめ）						
	11	事例展開 ①老年期の発達課題と特徴 ②老年期アセスメントの視点とポイント						講義
	12	事例紹介 ①グループワークの計画立案 ②情報の整理と疾患の理						グループワーク
	13	解						
	14	グループワーク ①アセスメントの整理 ②関連図作成						
15	グループワーク ①アセスメント・関連図修正 ②介入策 介入策に基づくロールプレイングとまとめ							
評価方法		終講試験・提出物・グループワーク成果						
テキスト		高齢者の健康と障害 高齢者看護の実践（メディカ出版）						
参考図書		老年看護学（医学書院） 看護診断ハンドブック（医学書院）、臨床検査データの本、今日の治療薬など						
Message		基礎看護学実習、領域別実習に向けて高齢者にとってのリハビリテーションとレクレー ションのもつ意味を考える時間にしましょう。 老年期の発達段階・発達課題に着目し、これまでの既習知識と合わせながら事例展開に 取り組みましょう。						
教員の 実務経験		看護師、理学療法師、作業療法師として10年以上の経験を有し講義にあたっている。						

授業科目	小児看護学援助論Ⅰ	年次	1 年次 前期	単位 時間	1 3 0	担当者	中村 敦子 高林 千恵美 他
目的 目標	1. 健康障害が小児とその家族に及ぼす影響と反応を発達段階に応じて理解する。 2. 小児に出現しやすい疾病・症状を知りその看護を理解する。 3. 小児看護に必要な看護技術を身につける。						
授業計画	回数	講義内容				備考	
	1	援助関係を形成する技術				演習	
	2	安心・安全な環境を調節する技術					
	3	日常生活の援助技術 ～食事・排泄・清潔・呼吸と循環・与薬～					
	4						
	5						
	6	救急救命の技術					
	7	症状・生体機能の管理技術 ～バイタルサイン・身体計測・検体採取・検査～				終講試験	
	8						
	9	安全・安楽を確保する技術					
	1 0						
	1 1	健康障害を持つ子ども・家族への看護					
	1 2	1 健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護					
	1 3	2 急性期・慢性期・終末期にある子どもと家族への看護					
	1 4	3 検査や処置、手術を受ける子どもと家族への看護					
	1 5	4 集中治療、ハイリスク新生児、心身障がいのある子ども					
	5 外来における子どもと家族への看護						
評価方法	筆記試験						
テキスト	DIGITAL NURSINGGRAPHICUS 31 巻小児の発達と看護 32 巻小児看護技術						
参考図書							
message	病気や障害に対して子どもとその家族が示す反応について、健康問題や発達段階による特徴から必要とされる看護について考えていきましょう。						
教員の 実務経験	看護師として実務経験を 7 年以上有し、講義にあたっている。						

[illegible]

[illegible]

授 業 科 目	母性看護学援助論Ⅱ (妊婦・産婦・褥婦・新生児の異常 と看護、事例展開)		年 次	1 年次	単 位	1 単位	担 当 者	田 中 科 森本 美佐
				後期	時 間	30 時間		
目的 目標			妊娠・分娩・産褥経過中にみられる異常、妊産褥婦および胎児・新生児におこる問題について理解し、健康状態のアセスメントと看護について学ぶ。					
授 業 計 画	回数	講義内容					備考	
	1	妊娠の異常と看護 ハイリスク妊娠、感染症、妊娠疾患					講義	
	2	多胎妊娠 異所性妊娠 妊娠持続期間の異常 胎児と付属物の異常（妊娠期）						
	3	分娩の異常 産道・娩出力の異常 胎児と付属物の異常（分娩期）						
	4	胎児機能不全 異常分娩時の産婦の看護						
	5	分娩第 3 期および分娩直後の異常 異常出血 分娩時の損傷 異常出血時の看護						
	6	産科処置と手術 胎盤娩出の異常						
	7	新生児の異常と看護 新生児仮死と呼吸障害 低出生体重児 分娩外傷						
	8	高ビリルビン血症 ビタミン K 欠乏症 産褥の異常と看護 子宮復古不全 産褥期の発熱						
	9	乳房トラブル 精神障害 産褥のアセスメント						
	10	筆記試験・まとめ						
	11	1. ヘルスプロモーションの考え方を理解する。					筆記試験	
12/13	1. 事例をもとに妊娠期、分娩期のアセスメントをする。					事例展開		
14/15	1. 事例をもとに褥婦のアセスメントをする。					グループワーク		
評価方法			100 点満点(内訳 異常編：筆記試験 70 点満点、事例展開：30 点満点) 筆記試験や個人提出物、グループワークの参加等で評価					
テキスト			母性看護学①概論・リプロダクティブと看護 ②母性看護の実践 ③母性看護技術 ナーシンググラフィカ メディカ出版					
参考図書			適宜資料配布 1) 日本助産診断・実践研究会編著，マタニティ診断ガイドブック，医学書院. 2) 太田操編著，ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程，医歯薬出版. 3) 森恵美：母性看護学（1）母性看護学概論，医学書院，2019. 4) 森恵美：母性看護学（2）母性看護学各論，医学書院，2019.					
message			母性看護学の正常を踏まえて、異常を理解するように学習を勧めていきましょう。事例展開に於いては、正常に経過している褥婦のアセスメントや看護について学習しましょう。					
教員の 実務経験			看護師または助産師、および教員として実務経験を 15 年以上有し講義にあたっている。					

授業科目		精神看護学概論	1 年次 前～後期	1 単位 30 時間	担当者	上安稔子
学 習 目 標		1 人間の発達段階と発達課題をふまえ、精神機能を健康の視点から理解する。 2 心の健康について重要となる概念と、精神看護の特徴を理解する。 3 精神保健福祉の歴史的変遷と関連法規について理解する。				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容			備 考	
	1	精神看護学を学ぶ前に			講義、ワーク	
	2	精神障害についての基本的関わり方			講義	
	3	精神障害者の体験			講義 体験	
	4	人間のこころと行動			講義	
	5	人格の発達と情緒体験			講義	
	6	現代社会とこころ			講義	
	7	家族とその支援 嗜癖と依存			講義	
	8	看護の倫理と人権擁護			講義	
	9 10	DVD 鑑賞			DVD 鑑賞 グループワーク	
	11	精神医療の歴史と看護			講義	
	12	ストレスマネジメントと精神科における看護師の役割			講義	
	13/14	精神看護学概論での学びをラベルワークしよう！			グループワーク	
	15	終講試験と解説				
	評価方法		筆記試験 提出物			
テキスト		ナーシンググラフィカ精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本				
参考図書		田中美恵子編著:精神看護学～学生－患者のストーリーで綴る実習展開 医歯薬出版 武井麻子:精神看護学ノート 医学書院				
Message		精神看護学は、こころの健康問題を持った人が回復を体験し、その人らしさを取り戻して生活していくことを、看護職として支援する方法を考え実践する分野です。うつ病や統合失調症といったこころに病気のある人は、現在、日本でも増え続けています。こころの病気は現在の日本社会にとって、喫緊の問題の1つと言えます。看護が担う役割も重要ですのでしっかり学んでいきましょう。				
教員の 実務経験		看護師の実務経験 9 年及び専任教員 25 年を有し講義にあたっている。				

授業科目		精神看護学援助論Ⅰ	1 年次	1 単位	担当者	上川比呂勝 上安稔子
			後期	30 時間		
学 習 目 標		1. 精神障害の病態と症状、診断、治療について理解する 2. 事例を通して全体像とセルフケア能力におよぼす影響を理解し、看護計画が立案できる 3. 状況設定による看護場面から、対応のあり方を考えることができる				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容			備 考	
	1	Ⅰ. 精神症状論と状態像 1. 思考の障害			講義	
	2	2. 感情の障害 3. 意欲の障害 4. 知覚の障害				
	3	5. 意識の障害 6. 記憶の障害 7. 局在症状				
	4	Ⅱ. 精神障害の診断と分類 1. 統合失調症①				
	5	2. 統合失調症②				
	6	2. 気分障害				
	7	3. 神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害、生理的障害、 身体的要因に関連した行動症候群				
	8	4. パーソナリティ障害 5. 精神作用物質使用による精神および行動の障害				
	9	6. てんかん 7. 発達障害				
	10	8. 認知症				
	11	Ⅲ. 精神看護学事例展開 1. セルフケア理論について 2. 演習について 3. 事例提示			講義	
	12	4. 全体像の理解① （基本的条件付け－発達の特徴と疾病の特徴）			講義、個人ワーク	
	13	5. 全体像の理解② （普遍的セルフケア要件、関連図）			講義、個人ワーク	
	14	6. 必要な看護を考える			講義、個人ワーク	
	15	7. 看護場面とその対応			グループワーク	
評価方法		筆記試験 提出物				
テキスト		ナーシンググラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 ②精神障害と看護の実践				
参考図書		適宜資料を配布します				
Message		● 事前学習として予習をして授業に臨むこと ● 精神看護の実践は、人間の尊厳を基盤に、精神障害によって日常生活に支障をきたした人々に対して、精神看護学の知識と技術を用いて、可能な限りの精神的健康の回復をめざし、その人が望む生活をその人らしく生き生きと送れるように援助することです。これらことを演習で体験し、対象を理解する視点、看護の考え方や実践の参考になれば、と考えています。みなさん、主体的に学習していきましょう。				
教員の 実務経験		医師の実務経験を 15 年以上有し講義にあたっている。 看護師の実務経験 8 年及び専任教員 25 年を有し講義にあたっている。				

授業科目	精神看護学援助論Ⅱ		1 年次	1 単位	担当者	上中秀一 岡橋麻希 酒井真紀 他
			後期	30 時間		
学 習 目 標	1. コミュニケーション技術を通して自己理解の必要性和治療的関係について理解する 2. 精神障害者への日常生活行動の援助について理解する 3. 精神症状に対する治療を踏まえ、看護的対応を理解する 4. 専門的精神看護の活動について、視野を広げる					
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1 2	4. 精神看護における対象の理解 1) 治療の場の人間関係 2) プロセスレコードの活用				講義

授業科目	在宅看護概論	年次	1 年次	単位	1 単位	担当者	牧瀬 真由美
			前期～後期	時間	30 時間		
授業概要 学生の 取り組み	在宅看護が必要とされている社会的背景の変遷と関連付けて、地域で生活しながら療養する人々とその家族の看護を学ぶ。在宅療養者の特徴、主な健康障害、看護援助とその提供機関、家族支援方法、社会資源の活用方法、他職種との連携と協働、ケアマネジメント、及び社会保障制度、療養者の権利擁護などの学習を通して在宅看護の特徴及び病棟看護との違いを理解する。						
授 業 計 画	回数	講 義 内 容					備 考
	1	◇ 在宅看護を学ぶにあたって ◇ 在宅看護でこころがけること					講義
	2	➤ 在宅看護の目的と機能 ◇ 在宅看護の目ざすもの・在宅看護における看護師の役割と機能 ◇ 地域包括ケアシステムと地域連携クリティカルパス、在宅療養移行支援 ◇ 在宅看護における看護師の倫理					講義
	3	➤ 在宅療養の対象者 ◇ 対象者の特徴					講義 グループワーク
	4	➤ 在宅看護の支援（施設と在宅を結ぶ看護）					講義
	5	◇ 在宅看護の提供方法 ◇療養の場の移行（合同カンファレンス）					
	6	➤ 在宅看護の対象者としての家族 ◇ 家族システムの特徴・家族アセスメント ◇家族への支援					講義 ロールプレイ
	7	➤ 在宅看護にかかわる法令・制度とその活用（在宅看護のしくみ）					講義
	8	◇ 訪問看護制度の発展経緯 ◇介護保険制度・訪問看護の制度					
	9	➤ 訪問看護ステーションをつくろう					講義
	10	◇ 訪問看護ステーションに関する規定					
	11	◇ ケアマネジメントと社会資源の活用・地域における他職種連携					
	12	◇ 看護過程展開のポイント					
	13	➤ 在宅看護における安全性の確保 ◇ 療養上のリスクマネジメント ◇ 災害に対する準備と対応					講義
	14	➤ 暮らしを支える在宅看護（エンドオブライフ・ケアと暮らしの保健室） ➤ 在宅看護の課題と方向性					講義 グループワーク
15	終講試験 解説						
評価方法	出席状況と授業への取り組み、課題、試験 100 点満点						
テキスト	ナースィング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア 臺有桂 石田千絵 山下留理子著 メディカ出版						
参考図書	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院						
Message	在宅看護を訪問看護活動のみで捉えるのではなく生活者としての捉え方とアプローチの方法や、継続看護についても学習しその支援や看護の継続性について考える時間にしていきます。人々の日々の生活の成り立ちを健康状態や地域社会の繋がりの中で理解する事が必要となります。そのため学生は、自身の日常生活、社会情勢の変化、保健、医療、福祉、等の諸制度に関心を持ってほしい。						
教員の 実務経験	看護師の実務経験 7 年、専任教員としての実務経験を 10 年以上有し講義にあたっている。						

授業科目		在宅看護援助論Ⅰ (訪問看護の実際)	1 年次	1 単位	担当者	高山雅子
			後期	30 時間		
目的・目標		様々な事例展開を通して在宅看護の特徴が理解できる。				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備考
	1.	脳梗塞事例				
	2.	肺炎事例				
	3.	脊髄損傷事例				
	4.	パーキンソン事例				
	5.	小児事例				
	6.	認知症、虐待事例				
	7.	認知症、虐待事例				
	8.	精神疾患事例				
	9.	老々介護事例				
	10.	糖尿病事例				
	11.	糖尿病事例				
	12.	ALS 難病事例				
	13.	ターミナル事例				
	14.	地域包括ケアシステムを考える				
	15.	終講試験 45 分 認定看護 DVD 在宅緩和ケア DVD				試験 45 分
評価方法		筆記試験 （４５分間） 100 点満点				
テキスト		ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 在宅療養を支える技術 メディカ出版				
参考図書		適宜資料配布 看護学講座 在宅分野 在宅看護論 河原加代子代表著 医学書院				
Message		在宅看護は対象と家族の尊厳のある生活を支える個別ケアである。プライバシーを守ることや、あらゆること の意思決定を尊重すること、観察と判断力など看護師のより高い資質が求められる。人間理解の、学習を 振り返った上で授業に臨んでほしい。				
教員の 実務経験		看護師実務経験 19 年の内、訪問看護ステーションで 13 年勤務。訪問看護認定看護師教育課程を修了し 講義にあたっている。				

授業科目		在宅看護援助論Ⅱ (在宅看護技術、事例展開)		1 年次	1 単位	担当者	酒井 淑子 牧瀬 真由美
				後期	30 時間		
目的 目標		訪問看護技術の基本技術と療養する対象のアセスメントを基に在宅における生活支援技術が理解できる。 事例を用いて終末期の療養者における看護過程の展開ができる。					
授 業 計 画	回数	講 義 内 容					備考
	1.	在宅看護技術 ①訪問看護って何？ 訪問看護の DVD 「こんにちは 訪問看護です」					講義 DVD
	2.	1、食生活の援助 トロミ剤使用の実習：サンプル食品の活用					講義 演習
	3.	1、清潔の支援 洗髪の実習 2、移動の実習					講義 演習：実習室
	4.	1、フットケア、 2、HOT、呼吸リハビリ、在宅人工呼吸器、					講義
	5.	1、HOT、在宅人工呼吸器の実際を学ぶ 業者の方に来校頂き、実際の器械について学ぶ。					業者による説明
	6.	1、在宅の褥瘡管理について					講義
	7.	1、排泄支援について ストーマ管理、膀胱留置カテーテルの管理					講義
	8.	1、経管栄養について 2、在宅輸液療法について					講義
	9.	1、疼痛管理について					講義
	10	終講試験 解説					試験
	11	在宅看護展開の視点、全体像をイメージ出来るように事例紹介をする。					講義
	12	看護アセスメント					個人学習
	13	関連図・看護目標					個人学習
	14	看護診断について					個人学習
	15	在宅看護のまとめと修正					講義
評価方法		筆記試験・提出物・授業参加度					
テキスト		ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版 看護診断ハンドブック第 11 版，医学書院.					
参考図書		看護学講座 在宅分野 在宅看護論 河原加代子代表著 医学書院、 適宜資料配布					
Message		在宅看護に必要な援助方法をしっかり学び臨地実習に活かして下さい。					
教員の 実務経験		各々看護師や教員として実務経験を 10 年以上有し講義にあたっている。					

授業科目		看護の統合と実践論概論 (看護管理・看護研究)	1 年次～2 年次	1 単位	担当者	有村 由美子 森本 美佐
			後期～前期	30 時間		
目 的 目 標		目的：1. 看護をマネジメントする看護管理の基本的な理解を深める。 2. 研究的態度を身につけ自己の看護観を明確にする。 目標：1. 人的資源、物的資源、財的資源を活用・維持できるマネジメントを理解する。 2. 生命倫理・医療倫理から派生した看護倫理と法および諸制度を理解する。 3. 組織や医療安全管理、チーム医療についてのマネジメントを理解する。 4. ケーススタディの意義を理解し研究方法について学ぶ。 5. 研究的視点を持って事象を分析し、援助の本質と看護師の役割を理解する。 6. 研究活動が専門職業人を育て、専門性を磨く鍵であることが理解できる。				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	1. 授業ガイダンス				
	2	1. 看護とマネジメント				
	3	1. 看護ケアのマネジメント				
	4	1. 看護サービスのマネジメント				
	5	1. 看護を取り巻く諸制度				
	6	1. マネジメントに必要な知識と技術①				
	7	1. マネジメントに必要な知識と技術②				
	8	1. 看護研究とは 2. 看護研究のプロセス				
	9	1. 関西看護学生看護研究大会参加				
	10	1. 文献検索とクリティーク 2. 看護研究と倫理				
	11	1. 看護研究のデザイン 2. データの分析と尺度開発				
	12	1. ケーススタディとは				
	13	1. 草稿・原著の書き方 集録の書き方				
	14	1. 看護研究発表の実際(効果的なプレゼンテーション)				
15	1. 講評、発表会の運営					
評価方法		筆記試験 提出物 出席状況				
テキスト		看護の統合と実践①看護管理 ナーシンググラフィカ メディカ出版 基礎看護学④看護研究 ナーシンググラフィカ メディカ出版 第 19 回関西看護研究大会演題集録				
参考図書		1) 上泉和子, 小山秀夫, 他：系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [1] 看護管理. 医学書院, 2013. 2) 坂下玲子, 他：看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 3) 黒田裕子：黒田裕子の看護研究 step up step 医学書院				
Message		看護管理・看護研究は、看護の発展と質の向上を目指した、既習学習の集大成ですから予習・復習をして臨みましょう。また、問題解決意識をもち医療に関する新聞記事やニュースに関心を持ち、その事例の看護上の問題を自分なりに考え文献を納得いくまで探してみましょう。				
教員の 実務経験		各々看護師や専任教員として 30 年以上の実績を有している。				

授業科目	看護の統合と実践論Ⅰ (災害看護・国際看護)	講師名	木下久美子 井上博・守本ともこ		
開講時期	1年次・2年次	単 位	1 単位	時 間	3 0 時間
目的 災害看護・国際看護について基本的な理解を深める。					
目標 1. 災害看護の基礎的な知識を理解する。 2. 災害看護の実際を理解する。 3. 国際看護の基礎的な知識を理解する。 4. 国際看護の実際を理解する。					
授 業 計 画	回数	内 容			講義方法
	1 2	災害の基礎知識 災害医療実施のための体系的アプローチ			DVD・講義
	3	災害看護の基礎知識 病院の災害看護の実際			講 義
	4 5	B L S			演 習 スポーツウェア
	6 7	トリアージについて			講義・演習
	8 9	国際看護の概念, 異文化看護 国際協力機関の取り組み, ODAについて			筆記試験 講義・DVD
	10 11	リプロダクティブヘルス, 母子保健, 女性生殖器切除についてグループワーク 感染症, HIV/エイズ対策, 貧困, 栄養問題, 衛生 海外の医療施設			講義・DVD
	12 13	外国人の現状, EPA制度, メディカルツーリズム, 英国・米国の看護, 検疫官の仕事,			講義・DVD
	14	海外で働く, 英国で看護師になる, 難民問題, 世界の人口 海外の医療施設			DVD・GW
	15	終講試験			
評価方法		災害看護 50点(筆記試験・提出物・演習参加度) 国際看護 50点(筆記試験)			
テキスト		日本赤十字社事業局看護部編集: 系統看護学講座 統合分野 「災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③」, 医学書院			
参考文献		DVD 「被災病院における災害直後の看護活動、入院患者と職員の安全を守るための情報・判断・行動」, 日経映像 「明日へ 果てなき苦闘 巨大津波医師たちの記録」, NHKスペシャル 「国際看護を学ぶ意義」「国際機関と世界のつながり」 「世界を視野に入れた看護の現場」 「世界で活躍する看護のプロフェッショナルたち」, ビデオ・パック・ニッポン			
Message		近年、わが国において大きな被害をもたらす災害が増え、その防災対策や救護・看護への期待は大きく、災害看護を通して国際協力を行う等グローバルな視点で看護を考えることが重要視されてきた。非日常のできごとである災害や国際看護について関心を持つため、新聞記事やニュースを通しその事例の問題点を自分なりに考えてみましょう。			
教員の 実務経験		各々が看護師や教員として30年以上の実務経験を有している。 井上博 (BLS): 救急救命士として9年の実務経験を有している。			

授業科目		看護の統合と実践論Ⅱ 医療安全	1 年次	1 単位	担当者	上安 稔子
			後期	15 時間		
目的 目標		1 医療事故の伴う看護師の法的責任について理解できる 2 医療事故の発生要因とヒューマンエラーの考え方を活かした事故防止策について理解する 3 演習をとおしてセルフモニタリングを働かせ、リスク感性を養う				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	Ⅰ. 医療安全と看護の理念 Ⅱ. 看護職の法的規定と医療安全 Ⅲ. 医療事故の定義と分類				講義
	2	Ⅳ. 事故の構造と対策 1. ヒューマンエラー 1) 事故発生のメカニズム 2) 人間の特性 2. 事故分析 1) 事故の構造 2) 事故分析の目的 3) 具体的な分析方法 3. 事故対策 1) リスクマネジメント 2) セルフモニタリング				講義
	3	Ⅴ. 看護における医療事故と安全対策 1. 診療の補助業務に伴う事故防止 1) 与薬に関する事故対策 2) チューブ管理に関する事故対策 2. 療養上の世話における事故防止 1) 療養上の世話における 2 群の事故 2) 療養上の世話に関する事故防止 3) 転倒・転落に関する事故対策 4) 誤嚥に関する事故対策 3. 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因				講義 DVD
	4	Ⅵ. 看護業務上の危険と防止策 Ⅶ. 医療安全とコミュニケーション				講義
	5	Ⅷ. 危険予知トレーニング演習 1. KYT 基礎 4 ラウンド法				講義 グループワーク
	6	状況把握→本質追求→対立樹立→目標設定→発表				
	7	Ⅸ. 実習における安全 1. 実習における事故の法的責任と補償 2. 実習中の事故予防および事故発生時の学生の対応 Ⅹ. 事例で考えよう！				講義 グループワーク
評価方法		筆記試験 提出物 出席状況				
テキスト		ナーシンググラフィカ 医療安全 メディカ出版				
参考図書		川村治子 医療安全ワークブック 医学書院 、 杉山良子 危険予知トレーニング メディカ 東京医科大学病院看護部安全対策委員会 こうすればできる安全な看護 アンファミエ 系統看護学講座 統合分野 医療安全 医学書院				
Message		この学習をとおしてみなさんのリスク感性が高められ、質の高い看護が提供できるよう個々の責任において自己研鑽を行うスキルをもつことができるようになればいいと思っています。がんばりましょう！				
教員の 実務経験		看護師の実務経験 9 年及び専任教員 20 年以上を有している。				

授業科目		看護の統合と実践論Ⅲ	2 年次 後期	1 単位 30 時間	担当者	石田 浩子 全教員
目的 目標		目的：既習の知識や技術を統合して、対象の状況に応じた看護実践能力を身につける。 目標 1．複数患者の疾患を理解し、優先順位を考えた看護計画が立案できる。 2．提示された看護場面から、看護実践中に生じる多重課題に対応できる。 3．客観的能力試験（OSCE）を通し、自己の対応能力と課題が考えられる。 4．看護師に求められる実践能力を理解し、統合実習における自己の課題を明確にできる。				
授 業 計 画	回数	講義内容				備考
	1	看護管理の実際				講義 個人ワーク グループワーク
	2	急変対応				
	3	臨床で求められる看護実践能力とは				
	4	多重課題とは				
	5	受け持ち患者の情報整理 1 日の行動計画作成				
	6	①受け持ち患者の状態 ②関連図 ③看護計画 ④メンバー実習計画表				
	7	グループ学習				
	8	事例から考えられることをグループで想定し対応を考える→実践する				
	9					
	10	OSCE				
	11	OSCE				
	12	デブリーフィング（振り返り）				
	13	リフレクション				
	14	リフレクション				
15	グループワーク 「看護師に求められる実践能力」					
評価方法		客観的能力試験（OSCE）、リフレクション、最終レポート、提出物の期限、出席状況 最終レポートについて、テーマ「自己の課題を克服するための抱負～統合実習に向けて～」書式は A4 横書き、表紙は付けずに 1400～1600 字（文字数明記）一枚にまとめる。 翌登校日 9 時までに提出				
Message		今まで培ってきた知識と技術を統合して、設定された看護場面での対象の看護について学習します。さらに多重課題に対してどう判断して看護を展開するかを客観的臨床能力試験（OSCE）で評価していきます。緊張感の高い試験ですが、看護師に求められている能力を再度振り返り、学んでいきましょう。				
教員の 実務経験		看護師や教員として実務経験 20 年以上を有している。				

臨地実習概要

科目	単位数	実習時期	実習目的・目標	実習場所
基礎看護学実習	2 単位 90 時間	1 年次後期	目的 既習の知識・技術・態度を活用し対象者を統合体として捉え、対象者に応じた看護を実践するとともに問題解決できる基礎的能力を養う。 目標 1. 対象者と良好な人間関係を築くことができる。 2. 対象者を身体的・精神的・社会的側面から捉え、対象者に応じた看護過程の展開方法を知る。 3. 自己の看護実践能力を評価し、倫理的態度の基礎を養う。 実習内容 1. 人間関係形成への関り 2. 対象を身体的・精神的・社会的・霊的側面からの理解 3. 看護過程の展開 4. 日常生活援助技術	病院
成人看護学実習	2 単位 90 時間	2 年次	目的 成人期（青年期・壮年期・中年期）にある対象の身体的、精神的、社会的、霊的特徴と発達課題を理解し、対象に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。 目標 1. 成人期にある対象の身体的、精神的、社会的、霊的特徴が理解できる。 2. 対象の健康障害の特徴を理解し、経過に応じた看護を計画・実施・評価・修正することができる。 3. 成人期にある対象のセルフケア能力を高めるための看護と社会復帰への看護が理解できる。 4. 継続看護の必要性を理解し、保健医療チームの連携と看護師の役割、責任および協調性の必要性が理解できる。 実習内容 1. 急性期・回復期・終末期にある対象の看護過程の展開 2. 慢性疾患を持つ対象および家族に対しての看護過程の展開 3. 保健医療福祉チームの一員として看護師の役割の理解	病院
老年看護学実習	2 単位 90 時間	2 年次	目的 高齢者の歩んできた背景、価値観、経験などを総合的にとらえ、健康と機能状態をアセスメントし、その人を尊重しながら対象の QOL と生活を中心に考え、対象者とその家族に応じた看護を実践する基礎的能力を養う 目標 1. 高齢者がもつ健康の自覚と、それを培ってきた健康に対する考え方、QOL を高めるための健康の在り方について理解することができる。 2. 加齢に伴う身体的変化と、健康障害からくる QOL に影響する問題を特定し、身体機能をできるだけ維持し改善しながら、対象が望む生活像を優先した看護の展開ができる。	病院

			3. 人生を統合する時期にある対象を理解し、対象の生命と自尊心を尊重する態度を身に付けることができる。 4. 高齢者を取り巻く生活環境や、高齢者の保健・医療・福祉の連携と看護の役割を理解することができる。 実習内容 1. 老年期にある対象の日常生活障害、健康レベルに応じた看護の実際 2. 受け持ち患者の日常生活援助 3. 家族への支援 4. 多職種との連携、社会資源の活用	
小児看護学実習	2 単位 90 時間	2 年次	目的 様々な成長発達と健康状態に応じた、小児とその家族の看護を実践する基礎的能力を養う。 目標 1. 健康状態が小児およびその家族に及ぼす影響を知る。 2. 小児看護の特性を理解し、児の健康レベル、成長発達に応じた看護援助や、安全を守るために必要な看護を学ぶ。 3. 幼児期の成長発達を理解し、健全な成長発達を促すための役割の実際を学ぶ。 4. 小児の健康生活を促進し、看護が継続して実践できる社会資源の活用を知る。 5. 小児との触れ合いを通して、小児の権利や自己の小児観、看護観を深めることができる。 実習内容 1. 児に応じた日常生活援助 2. 外来における看護の実際 3. 安全管理及び安全教育 4. 成長発達に合わせた遊び、学習支援 5. 多職種との連携、社会資源の活用	病院 幼稚園 児童発達支援サービス
母性看護学実習	2 単位 90 時間	2 年次	目的 母性の特徴を理解し、妊娠・分娩・産褥および新生児における必要な看護を理解できる。 目標 1. 妊娠期にある対象の特徴が理解でき、対象が健康に妊娠期を送るための援助について知ることができる。 2. 分娩期にある対象の特徴が理解でき、分娩が正常に経過するための観察と援助を知ることができる。 3. 産褥期にある対象の身体的・精神的・社会的変化が理解でき、産褥期を順調に経過するための援助を知ることができる。 4. 新生児の特徴が理解でき、新生児が胎外生活に適應するための援助がわかる。 5. 地域の子育て支援の実際について知ることができる。 6. 生命観、母性観を深めることができる。 実習内容 1. 妊娠の生理的变化の理解	病院 助産院 子育て支援室

			2. 健康診査と保健指導の見学 3. 分娩進行状態の観察と看護 4. 産褥経過の観察と看護 5. 新生児の特徴と看護 6. 看護過程の展開技術 7. 地域における子育て支援	
精神看護学実習	2単位 90時間	2年次	目的 精神に障害をもつ対象とかかわることで対象の理解と自己洞察を深め、看護援助および精神保健活動を実践できる基礎的能力を養う。 目標 1. 精神障害を持つ対象とその家族を理解することができる。 2. 入院患者のセルフケア能力をアセスメントし、必要な看護を考えることができる。 3. 精神障害を持つ対象に対する人権擁護の重要性を理解する。 4. 患者―看護師関係の発展過程を理解し、自己の感情や傾向に気づき、自己洞察できる。 5. 社会復帰への活動内容とそれに関わる精神科医療チームの役割について理解する。 実習内容 1. 精神障害を持つ患者とその家族の理解と看護過程の展開 2. プロセスレコードと自己理解 3. 社会資源の活用	病院 精神科通所施設 デイケア
在宅看護論実習	2単位 90時間	2年次	目的 地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅看護を実践できる基礎的能力を養う 目標 1. 在宅療養者・家族を総合的に捉えることができる 2. 在宅療養者・家族の療養上の課題をアセスメントし、課題解決に向けて考えることができ看護援助につなげることができる 3. 訪問看護の実際を知り、療養者と家族の生活に応じた援助方法を学ぶ 4. 地域包括ケアシステムにおける他職種、他機関との連携の実際を知り、療養者・家族を支える社会資源の活用について学ぶ 実習内容 1. 在宅で療養している療養者・家族を対象とした看護 2. 在宅療養を支える施設における看護 3. 地域包括支援センターの役割や業務内容 4. 生活者の視点を尊重した社会資源の活用	訪問看護 ステーション 介護老人 保健施設
看護の統	2単位 90時間	2年次	目的 複数患者の状況に応じ、関連職種と連携・協働しながら総合的な看護を実践するための基礎的能力を養う。	病院

合 と 実 践 実 習		目 標 1. 複数患者を受け持ちながら、優先順位を考えた看護実践ができる 2. チーム医療の一員としての看護の役割を理解する 3. 看護チームの一員としてリーダーおよびメンバーの役割を理解できる 4. 病棟管理、看護管理の実際を学ぶ 5. 看護の専門職としての自己の課題を述べることができる 実習内容 1. チーム医療と看護師としてのリーダーシップの実際 2. 看護管理の実際 3. 複数患者への看護の実際	
----------------------------	--	---	--

小計 16 単位
720 時間

2020年度 学校関係者評価報告書

評価対象期間 自2020年4月1日
 至2021年3月31日
評価基準日 2021年4月1日

学校法人栗岡学園
四条畷看護専門学校

《 学校関係者評価 評価委員 》

(敬称略：五十音順)

委員長 米澤 泰司
委員 大原 敏敬
委員 川原 勲
委員 酒井 真紀
委員 谷川 優香
委員 前原 園代
委員 宮野 博

《 評価項目の達成および取組状況 》

- 1 教育
- 2 施設・設備
- 3 学生サービス
- 4 教育面などでの特筆すべき取組

《 自己評価回答責任者 》

副校長・教務主任・事務主任

教育分野（以下に点検・評価する教育分野の番号を○で囲んでください。）

1 リハビリ

2 看護

1 教 育

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者評価
1. カリキュラムは 貴校の教育目標 をどのように反 映していますか	・看護に必要な知識・技術・ 態度を修得し社会に貢献 できる看護師の育成に努 めている。	・准看教育からスムーズに移行 できるように、基礎教育から 段階的なカリキュラムにな っている。 ・教育目標、育成したい学生像 に関して教務会で話し合い、 共通認識を持ち教育に当た っている。 ・2年課程のため過密なカリキ ュラムでコロナ禍の影響で 内容変更をせざるを得ない 状況だが内容を検討する時 間が充分でない。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	・カリキュラム改正に 向けて話し合いを繰 り返し、今後も会議 を定期的に持ちカリ キュラムの構築に向 けて取り組む。 ・話し合いを継続しな がら重複科目は省い ていく必要がある。	・カリキュラム改正 前に現段階でのカ リキュラムの見直 しが必要になると 思います。また、 改正に向けて、早 い段階より内容の 構築を行っていく 必要があります。 ・時代のニーズに則 した内容となるよ う質の向上に努め ること。
2. カリキュラムに 卒後の職場のニ ーズをどのよう に反映していま すか	・実習先の病院指導者や卒 業生から職場のニーズを 得て、カリキュラムに加 えるようにしている。 ・実習施設からも講義に來 ていただき現場を意識し た授業内容を行っている。 コロナ禍で、臨地実 習も十分に行けなかつた こともあり、卒前教育と して技術演習を取り入れ	・卒業生アンケートでは、概ね 教育内容に満足していたが、 現場で使う看護技術(診療の 補助)をもっと演習したいと いう意見もあった。 ・就職先が多岐にわたり、コロ ナ禍の影響で指導者会議が 行われず、職場のニーズを十 分把握できなかったが、共有 した内容を基に技術演習・実 習前演習に活かしている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	・就職先に卒業生の勤 務状況のアンケート やインタビュー、交 流会等を計画する。 ・卒前教育を計画的に 組み入れる。 ・専門職に必要な社会 人基礎力育成に向け た取り組みを行って いく。	・就職先ごとに、ニ ーズが違うため、 学生のうちより、 そのニーズの違い を把握しておくこ とで、卒後すぐに 働ける即戦力のあ る人材に成長でき ると思います。 ・実習先や、臨床の 現場からの意見を

	ることとした。 ・カリキュラム改正に伴い、卒業生アンケートを実施した。				受け止め、より専門性の高い知識技術の習得を教育すること。 ・社会人基礎力の育成は重要であり、今後も継続して取り組んでいただきたい。又、専門教育に加えて社会人として備えておくべき資質の向上にも努めていただきたい。 ・コロナ禍の中での対応、非常に工夫が必要とされたが、会議は ZOOM で展開できるようになり、保護者との懇談も ZOOM で実施できます。
3. 授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか	・指定規則を基本として配分できている。 ・2 年課程で実習以外の科目はほとんど 1 年次に実施するため過密なカリキュラムとなっている。 ・コロナ禍で授業時期の変更や、リモート講義、課題学習が増えた。	・過密なカリキュラム、一科目を複数の教員が担当することから学習の順序性や学習効果を考えた配分が難しい。 ・学生の理解度に差があり個々の理解度にあった時間配分は難しい。 ・終講試験や再試験も時期を逸してしまいますこともある。学年	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	・授業内容を精選し、時間割を作成する。 ・外部講師と調整し授業時期や終講試験日の調整を実施。 ・意図的な自己学習の支援の検討をする。	・スケジュールがタイトであり非常に工夫して先生方が教育されている。学生の理解度を確認しながら充実した授業を行ってほしい。

		をまたぐ科目もある。			
4. シラバス（授業要項）を作成していますか（内容は適切ですか）	・教育計画に沿って、シラバスを作成している。 ・どのような学習をするのかイメージできるようにになっている。	・シラバス、実習要項等を通して学生・教員に周知している。 ・年度によって変更点など確認しているが、非常勤教員への徹底が難しい。 ・今年度はコロナ禍であったため変更を余儀なくされ学生への配布が遅れた。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 分 う 分	・4月には、シラバスを配布できるよう調整する。 ・学内だけでなく外部教員のシラバスや講義録も電子化し、共有可能にする。 ・授業内容を常に見直していく。	・外部教員もシラバス等確認することができ、教授内容に差異が生じる講義が減少すると思います。 ・非常勤講師も含めて充実した内容のシラバスを作成している。シラバスの内容にそった授業を心がけること。 ・情報共有の手段もネットワーク以外にも多様な方法があり情報の整理が重要な課題です。
5. カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか	・年度末及び適宜会議にかけ。見直しを行っている。 ・新カリキュラム申請(2023年)に向けて月1回会議を開催し見直しを行っている。	・授業終了時及び卒業時の学生アンケートを反映させている。 ・2020年度はコロナ禍の影響により、授業・実習内容が変更となり学習内容の精選に時間がかかったが、大きな問題はなかった。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 分 う 分	・学科領域が横断的に連携できるよう検討する。 ・定期的なカリキュラム会議の継続を行う。	・カリキュラム会議のメンバーの多様性が必要だと思います。

6. テキストや教材をどのような基準で採用していますか	・テキストは、科目目標や国家試験出題基準を参考に、教務会議で検討し採用している。	・ICT教育を見据え電子書籍を採用したため、書き込みや検索がしやすく学習しやすい環境となった。 ・使っていない教科書があるという不満はなかった。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	・臨床現場のイメージ化が図れる電子書籍の選定を行う。 ・ICT教育のための環境整備を充実させる。	・IC教育は場所の制約を受けずに教育が受けられ、教員の業務負担の軽減に寄与することが期待されるので導入を行うことに賛成です。 ・第1に国家試験の内容を網羅している教材を選択している。また、電子書籍で学習しやすくなったと思われる。 ・ICT教育で、現場でのIT化にも、すぐ馴染めるメリットがある。 ・ITCは必須で、専門チームを充実させることが必要。
7. 目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか	・科目の目的・目標に沿って評価している。 ・成績評価方法は学生便覧及びシラバスに明記している	・成績評価は、科目担当が基準に則り公平に評価している。 ・成績評価の見直しをその都度行っている。 ・成績評価にかかわる問題が生じた場合や成績不良者の情報共有は、教務会議で検討し学生・保護者へ説明している。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	・成績評価に関して学生・保護者から疑問があった場合には、同意を得られるよう説明を徹底する。 ・特に実習評価は差異が生じない様に可視化できる評価表を検討する。	・学生に不信感が生じないよう各教員が基準に従い公平に評価している。

8. 学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか	・学生の理解度に応じ、授業形態としては、講義・演習・実技・実習を組み入れ、学習方法としては、アクティブラーニング・PBL・ディスカッション・プレゼンテーション等を実施し主体性を尊重した参加型の授業を実施している。 ・レポート課題などで学習の理解度を把握している。	・学生の質問の機会を作るなど学生が積極的に授業に参加できるようにしている。 ・国家試験対策では特別講義とチューター性を取り入れている。 ・コロナ禍ではオンライン授業も多く学生の反応がとらえにくかった。 ・時として准看護師としての経験を軌道修正することが難しかった。	5 4 3 2 1 + ← → + 分 う 分	・授業研究への取り組みを検討する。 ・1年次からチューター性を導入する。 ・定期的なアンケートや確認テストを行っていく	・チューター制とは先輩が後輩を指導することであれば、先輩の主体性をたかめ、かつ、1年生の相談支援にも好影響を出ることができるためさらにすすめていくべきである。 ・チューター性にて、より個々の理解度の把握を行えると思います。ただし、教員への負担が増えることが予測されますので、過度の対応にならないように工夫も必要になると思います。 ・学生の授業理解度に応じて色々な方法で授業をすすめている。到達度の確認のため、小テストなども効果的と思われる(毎授業終了時など) ・オンライン授業が増えたと思われ
-----------------------------------	--	---	--	---	---

					るが、今後も継続していくであろうから学生の反応をしっかりと捉え、有効に活用して頂きたい。 ・確認テストを常態化して行うことは非常に大切ですね。
9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか	・入学時の基礎学力テストの結果を基に補習を行っている。 ・長期休暇には学習課題を確認し低学力者には面談を行っている。 ・低学力者にはランチョンセミナー等を開催している。	・1年次は学習対策委員会を中心に主体的学習の実施、2年次はチューター性を活用し国家試験対策を個別指導している。 ・成績不良に対し担任・教務主任を中心に面談を実施し学習方法の指導を行ったが成績アップにつなげることができなかった。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	・入学直後から低学力者に対し、学習方法の指導を徹底していく。 ・教員同士で情報共有を行い、教員全員が連携しながらのサポート体制を継続する。	・ゆとり世代の教育は大変課題が多くあるため対策が学校全体で取り組む必要があるように思う。 ・1年次よりチューター性に加え、グループ学習等も並行して行うことで学力不足の学生に対し意欲を高めることができるかもしれません。 ・入学時から基礎学力低下している学生への補習を行い、ドロップアウト防止に有効と考えられる。 ・入学前に学習課題

					を提供し、その内容に従って入学直後に学力テストを実施する方法もあります。
10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか	・専門職業人としてふさわしい品性を備えられるよう随時指導している。 ・学生の自尊心の尊重を基本理念としている。 ・校内禁煙	・便覧に則りながら教務会議で協議し共通認識をもち随時指導している。 ・なぜ必要なのかとわかるよう説明している。 ・年齢層が幅広いため、学生が納得できるように指導することが難しい。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	・教職員全員で意思統一を図り、指導を行っていく。	・学内は禁煙であり、医療職となるにふさわしい人格の育成に努力している。
11. 教育技術（教育方法）の研修・研究を実施していますか	・教育の質向上の目的で、個々のニーズに合わせた研修や講習会が2回/年参加可能である。 ・伝達講習を義務化している。	・コロナ禍ではあったが、オンラインの研修会には参加できた。 ・今年度は、伝達講習の時間調整が難しかった。 ・クラス担任は、クラス運営の調整が難しく研修機会に制約がある。 ・研究授業の調整が難しい。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	・今後も教員全員が年2回以上の研修・研究会に参加する ・研修参加が可能となるよう業務調整を行う。 ・外部講師の授業や他校の授業なども見学できる機会を設ける。	・今後も、内部で業務を調整しながら研修しながら研修・研究等にかかる時間を確保する必要があると思います。 ・教育の質を向上させるため、年2回以上の研修、研究会参加を継続していくことが望ましい。 ・オンライン研修を有効に活用されることを願います。 ・校内における授業見学の制度設計が必要だと思う。

12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか	科目終了後に授業アンケートを実施している。集計後は教員にフィードバックしている。	- 授業アンケートを実施することで、教員の課題が明確になり、授業改善に反映できている。 - 実習終了時のアンケートが統一して行えていない現状である。	5 十 分 4 ← → 3 ふ う 2 つ う 1 不 十 分	- 講義アンケートは継続するが、調査の時期を検討する。 - 実習のアンケートについて検討していく。	- アンケートを統一して実施し、講義内容の改善のため、随時フィードバックしていく必要があると思います。 - 授業アンケートを参考にして学生のニーズを授業に反映している。非常勤講師にもアンケート結果を提供することが望ましい。 - アンケートには教員に対する「サックス」「アワード」も含んで運用することも検討して下さい。
--------------------------------	--	---	--	--	--

2 施設・設備

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者評価
1. 教室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	指定規則に準じ人数に見合った、教室や付帯設備である。	- コロナ禍では、大教室がなく密を避けられなかったが、関連施設の講堂を借用できた。 - A V機器、エアコン等は、徐々に最新のものを設置してい	5 十 分 4 ← → 3 ふ う 2 つ う 1 不 十 分	校舎、付帯設備に問題が生じた場合は、即対応していく。	特に問題ない。

		る。 ・面談に使用できる場所が少ない。			
2. 図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか（有効に活用されていますか）	・指定規則に準じた蔵書・教材を購入している。 ・司書が毎日開室・定期的に蔵書点検を行っている。	・書籍の整理はできており、検索システムがある。 ・学生が実習や看護研究を行っていくうえでの貸出可能な文献が少なく年数が経過している。 ・司書が兼務であるため、決められた時間以外の図書室開室に制約がある。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	・最新の図書を増やす。 ・学生のニーズに合わせた開室、使用方法を検討する。	・新刊を積極的に購入して最新の知識・技術を学生に提供することが望ましい。 ・ICTの導入が今後必須で、デジタル化された図書室の運営が重要だと思います。
3. 実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	・指定規則に準じている。 ・学生の人数に十分対応できる実習室の広さや個数は確保されている。	・モデル人形を購入・レンタルすることで、学内実習や卒業前技術演習に取り組むことができた。 ・ベッド毎にカーテンを設置したことで、より臨地に近い環境作りができた。 ・備品の取扱いを通し物品の手入れや大切に扱うことが学べている。 ・ベッドが古くなっている。 ・付帯設備を関連校から借用し技術演習の充実を図っているが、時間割の調整に苦慮している。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	・設備や備品のリストアップ ・リスクマネジメントからの購入計画の検討をする。 ・定期点検とともに、授業終了時後はその都度点検を行う。 ・破損・汚染時は迅速に対応する。	・特に問題ない。 ・定期的の実習実験室の附帯設備の点検が、システムティックになされることが重要だと思います。

4. 最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか（有効に活用していますか）	・リモート学習ができるよう Wi-Fi 環境の整備やパソコンを購入した。 ・情報科学の授業で情報機器は、関連施設のものを使用している。	・パソコンを購入したが、台数が不足しており Wi-Fi も不安定な状況である。 ・関連施設まで移動に時間がかかる。 ・視聴覚機器、PCソフトが古いが随時購入している。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	・学生が使用できる PC の設置ソフトの更新などセキュリティ対策を行う。 ・卒業前演習でも臨地に対応できるような備品の充実が必要。 ・機器は丁寧に扱い、支障をきたした場合は迅速に対応する。	・今後のリモート学習に備えて、Wi-Fi 環境を早急に整えなおすべきだと思います。 ・昨今の環境変化により、リモート学習を充実させている。ストレスのない Wi-Fi 環境が望ましい。
5. ニーズに応じた学生寮を保有していますか（有効に活用されていますか）	・徒歩圏内に寮母が在住する女子 寮（個室）を保有している。 ・寮母と学校との連絡は図れている。	・築1年の綺麗な施設で、学習環境に恵まれている。 ・無料の Wi-Fi がある。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	・学生のニーズに合わせて有効に活用していく。	・個人情報の流出に注意しながら、Wi-Fi 環境設定を行うことが必要だと思います。 ・特に問題ない。 ・新築されとても恵まれた環境にあると思います。
6. 体育館や運動場などを保有していますか（有効に活用されていますか）	・関連施設の体育館を使用している。 ・式典・サークル活動や地域住民にも開放している。	・コロナ禍で、感染防止の観点から授業以外での体育館使用は中止している。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	・感染管理を含めた管理を徹底指導する。	・体育館・運動場など必要に応じて関連施設を利用している。

3 学生サービス

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者評価
1. クラス担任制をとり修学に問題	・クラス担任を中心として役割別担当も機能させな	・教務会議で学生の状況報告を行い、教員全体で学生支援に	5 4 3 2 1 + ふ 不	・担任に負担が偏らないよう、	・社会人入学者を増やす取り組みも

のある学生に対して適切な対応を行っていますか	がら、学生に対応している。	あたっている。 ・学生の抱える問題も多様化し担任に負担が偏っている。	← 5 4 3 2 1 分 十 つ 十 う 分	1 年次からのチューター制の導入なども検討。 ・必要に応じて支援体制を整えていく。	必要と思う。限界があるため。 ・クラス担任制により、学生支援を行っている。学生の問題が多様化しており、柔軟に対応していくことが望ましい。
2. 学生に対してカウンセリング（心理相談）を行っていますか	・専門家が定期的に来校し、希望する学生にカウンセリングを行っている。 ・教員とカウンセラーも連携を取りながらフォローしている。	・個室で実施しプライバシーは遵守されている ・新入生がコロナ禍で登校できない、国家試験受験に対するストレス等があったが、徐々に変化が見られた。 ・教員は、傾聴、受容、共感的な対応で支援している。	5 4 3 2 1 十 十 ← 十 分 十 つ 分 う 分	・専門家との連携の強化を図る。 ・教員に対する心理相談の教育プログラムを検討する。 ・心理相談が受けやすい環境を調整する。	・教員へ心理相談をされることも多いと思うので、その場合積極的にカウンセラーと相談してもらい教員の負担軽減を図ると良いと思います。 ・学生の希望があれば、臨床心理士によるカウンセラが受けられる。
3. 教室以外に休憩スペースが適当に置かれてありますか	・2階にロビー、3階に更衣室・多目的室があり、語り合いや休憩場所として活用している。	・コロナ禍のため施設の仕切りを工夫し、多目的室、カフェレンス室を設けた。 ・ロビーや更衣室に休憩スペースがあるが空調設備がない。	5 4 3 2 1 十 十 ← 十 分 十 つ 分 う 分	・ロビー・更衣室の環境整備	・問題ない。 ・図書室以外に自習室の確保が必要なことはないですか。
4. 食事場所や売店などのスペースが設けられていますか	・売店はないが、学校が選定した弁当業者を学生は活用している。	・弁当業者の利用者数は多い。 ・今年度はパン業者がコロナのため営業を中止している。 ・教室以外に多目的室も使用し食事スペースを確保した。	5 4 3 2 1 十 十 ← 十 分 十 つ 分 う 分	・学生からもパン業者の再開の希望があり、検討していく。 ・食事時の換気の徹底、パトロールの継続を	・売店はないが、近隣のコンビニなど利用可能であり、食事スペースも確保している。

		・食事中は衝立としてアクリル板を使用し会話による飛散を防いだ。教員はパトロールを実施している。		行う。 ・清掃を徹底する。	・当高校では、黙食のポスターを作成して、職員室、教室、食堂に掲示している。
5. 学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか	・関連医療施設に奨学金制度があり、就職も可能である。	・学校見学会や入学時に奨学金制度について説明を行っている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	・学校見学会などで、奨学金制度の説明を継続する。 ・特待生制度の検討が必要である。	・関連施設の奨学金制度があり、多くの学生が利用している。
6. その他	スクールバスの運行を行っている。	・コロナ禍で、授業開始時間が変更になりバスの活用ができなかった。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	スクールバスの運行の続行。	

4 教育面などでの特筆すべき取り組み(自由記入)

※学内においてこれまで記入したこと以外に、教育、施設・設備、学生サービス面での特筆すべき取り組みがあれば記入ください。

・国家試験対策のチューター性に加え、さらなる強化を図るために、直前には担任以外にも担当者を置き指導にあたった。

・新カリキュラムに向けて教育体制の検討に全員で取り組んでいる。

・関連校との協力体制をとり、学生教育の充実を図っている。

・感染状況がおさまればボランティア活動をはじめ地域との交流、連携を深めていく。

・ICT教育（遠隔授業及び電子書籍）の充実を図っていく。

・平成31年4月より厚生労働大臣が指定する「専門実践教育訓練給付制度指定講座」に認定された。また令和2年4月には、高等教育の修学支援新制度の対象機関となった。学生の経済支援サービスのため、今後も認

・WiFiなどのネットワーク整備を進め、ICT教育を確立させることで、より学生の学習効率の向上が見込めると思います。カリキュラム改正に向けて、現段階でのカリキュラム・シラバスの見直しを徹底し、改正とともにアップデートを早急に行えるように準備が必要になってくると思います。

・コロナ禍における学習は、様々な配慮と工夫をしながらの取り組み大変だったと思います。そんな中、学生ひとりひとりに寄り添った教育システムを構築していった年だったと察します。実習施設側としても中止をせざる状況になった学生もいて、経験値に差があったかもしれませんが、教育側がそれをカバーする努力をされたと思います。あ

可が継続できるよう学校を上げ学習支援に取り組んでいく。

りがとうございました。

- ・常に開かれた学校であることを目指して頑張ってください。
- ・「専門実践教育訓練給付制度指定講座」に認定、また、高等教育の修学支援新制度の対象機関となるということは、素晴らしいことです。是非とも認可が継続されるように健闘して下さい。